■困ったときは(サポートのご案内)

ホームページで調べる

SUPPORT

サイバーショットおよび「Image Data Converter SR」の最新サポート情報(製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法など)はこちらのホームページから
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

サイバーショットオフィシャルWEBサイト
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/

サイバーショットの最新情報、撮影テクニック、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。英語の取扱説明書のダウンロードもできます。
(English manual download service is available.)

付属ソフトウェア(PicturePackage)のサポート情報
http://www.ppackage.com/

電話で問い合わせる(おかけ間違いにご注意ください。)

TEL

サイバーショットおよび「Image Data Converter SR」に関するお問い合わせ窓口
テクニカルインフォメーションセンター
電話:0564-62-4979
受付時間:月～金曜日:午前9時～午後8時
土、日曜日、祝日:午前9時～午後5時
お問い合わせの際は、本機をお手元にご用意ください。

Picture Package

PicturePackageに関するお問い合わせ窓口
ピクセラユーザーサポートセンター
電話:06-6633-3900
受付時間:月～日曜日　午前9時～午後5時(年末、年始、祝日を除く)

REPAIR

指定宅配便での修理品のお引取り、修理後の製品のお届けまでを一括して行います。テクニカルインフォメーションセンターへお電話いただくか、WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-repair/

■カスタマー登録のご案内

サイバーショット カスタマー登録

カスタマー登録していただくと、安心・便利な各種サポートが受けられます。詳しくは、同梱のチラシ「カスタマー登録のご案内」もしくはご登録WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-regi/

登録後は登録者専用お問い合わせ窓口をご利用いただけます。
詳しくは下記のURLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/contact/

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35　http://www.sony.co.jp/

この説明書は100%古紙再生紙とVOC(揮発性有機化合物)ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan

2654494020

SONY

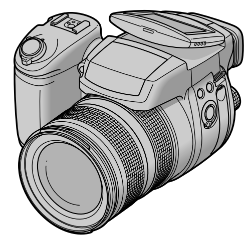
2-654-494-**02** (1)

サイバーショット取扱説明書

活用編・困ったときは

⚠警告　**電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。本書と別冊の「サイバーショット取扱説明書 はじめにお読みください」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



DSC-R1

Cyber-shot

Memory Stick™　InfoLITHIUM™ M SERIES

「はじめにお読みください」(別冊)
本機を使うための準備と、基本的な撮影・再生の方法を説明しています。

⚠警告 安全のために

→ *136 ～ 138ページも*
あわせてお読みください。

誤った使いかたをしたときに生じる**感電や傷害など人への危害**、また**火災などの財産への損害**を未然に防止するため、次のことを必ずお守りください。

⬇

「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源コードに傷がないか、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

カメラやACアダプターなどの動作がおかしくなったり、破損していることに気がついたら、すぐにテクニカルインフォメーションセンターへご相談ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら
煙が出たら

➡

❶ **電源を切る**
❷ **電池をはずす**
❸ **テクニカルインフォメーションセンターに連絡する**

裏表紙に**テクニカルインフォメーションセンターの連絡先**があります。

⚠危険 万一、電池の液漏れが起きたら

❶ **すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂の恐れがあります。**
❷ **液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で充分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。**
❸ **液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。**
❹ **液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。**

警告表示の意味

この取扱説明書や製品では、次のような表示をしています。

⚠危険

この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。

⚠警告

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

⚠注意

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を指示する記号

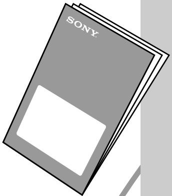


電池について

安全のためにの文中の「電池」とは、「バッテリーパック」も含みます。

サイバーショットを楽しむために

まずは準備をして、簡単に撮影しよう！



別冊「はじめにお読みください」

1 バッテリーを準備する

2 電源を入れ、時計を合わせる

3 記録メディア（別売り）を入れる

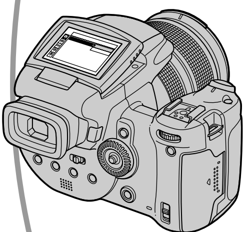
4 用途に合わせて画像サイズを決める

5 簡単に撮る（オート撮影）

6 画像を見る/削除する

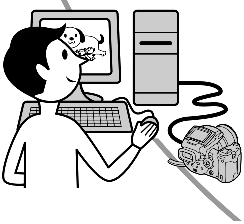
本書では、→*別冊「はじめに」* とご案内しています。

少し慣れたら、本機の機能を使いこなそう！ *本書*



- お好みの設定で撮影する→28ページ
- メニューを使って、さまざまな撮影/再生を楽しむ→63ページ
- 本機のお買い上げ時の設定を変える→71ページ

さらに、パソコンやプリンターとつないで楽しもう！ *本書*



- 画像をパソコンに取り込んで活用→84ページ
- 本機をプリンターに直接つないでプリント（PictBridge対応プリンターのみ）→102ページ

目次

メニューを使う

セットアップ画面を使う

パソコンで楽しむ

静止画をプリントする

テレビにつなぐ

困ったときは

その他

安全のために 136

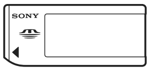
用語の解説/索引

お使いになる前に必ずお読みください

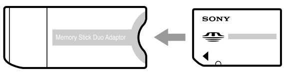
本機で使用できる"メモリースティック"（別売り）

本機で使用するIC記録メディアは"メモリースティック"（"MemoryStick"）です。"メモリースティック"のサイズには2種類あります。

"メモリースティック"：本機で使用可能です。



"メモリースティック デュオ"：メモリースティック デュオ アダプターに入れて、本機で使用可能です。



メモリースティック
デュオ アダプター

- "メモリースティック"について詳しくは、125ページをご覧ください。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについてのご注意

- 初めてお使いになるときは、付属のバッテリー NP-FM50を必ず充電してください。（*→別冊「はじめに」手順1*）
- バッテリーを使い切らない状態でも充電できます。また充電が完了しなくても途中まで充電した容量分はお使いいただけます。
- バッテリーを長持ちさせるために、長時間使用しない場合は、本機で使い切ったあと、バッテリーを取りはずして湿度の低い涼しい場所で保管してください（128ページ）。
- バッテリーについて詳しくは、128ページをご覧ください。

カール ツァイスレンズ搭載

本機はカール ツァイスレンズを搭載し、繊細な映像表現を可能にしました。本機用に生産されたレンズは、ドイツ カール ツァイスとソニーで共同開発した、MTF#測定システムを用いてその品質を管理し、カール ツァイスレンズとしての品質を維持しています。

さらに本機はT* コーティングを採用しており、不要な反射を抑え、忠実な色再現性を実現しております。

\# Modulation Transfer Function（モジュレーション トランスファー ファンクション）の略。コントラストの再現性を表す指標です。被写体のある部分の光を、画像の対応する位置にどれだけ集められるかを表す数値。

ACアダプターに関するご注意

- ACアダプターのDCプラグを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。
- ACアダプターのDCプラグを汚れたまま使わないでください。汚れは乾いた綿棒などで拭き取ってください。汚れたままご使用になると、正しく充電されないことがあります。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラや記録メディアなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピー（バックアップ）をおとりください。

撮影・再生に際してのご注意

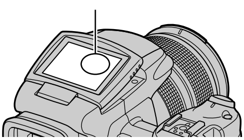
- 本機は防じん、防滴、防水仕様ではありません。「使用上のご注意」もご覧ください（129ページ）。
- 必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。

- 本機を濡らさないでください。水滴が内部に入り込むと、故障の原因になるだけでなく、修理できなくなることもあります。
- 日光および強い光に向けて本機を使用しないでください。目に回復不可能なほどの障害をきたすおそれがあります。また故障の原因になります。
- 強力な電波を出すところや放射線のある場所で使わないでください。正しく撮影・再生ができないことがあります。
- 砂やほこりの舞っている場所でのご使用は故障の原因になります。
- 結露が起きたときは、結露を取り除いてからご使用ください(129ページ)。
- 本機に振動や衝撃を与えないでください。誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、記録メディアが使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。
- フラッシュの表面の汚れは取り除いてください。発光による熱でフラッシュ表面の汚れが変色したり、貼り付いたりすると、充分に発光できない場合があります。

液晶画面、液晶ファインダー(搭載機種のみ)およびレンズについてのご注意

- 液晶画面や液晶ファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されません。

黒い(白/赤/青/緑)点



- 液晶画面や液晶ファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。
- 液晶画面を強く押さないでください。画面にムラが出たり、液晶画面の故障の原因になります。
- 寒い場所で使うと、画像が尾を引いて見えることがありますが、故障ではありません。
- 本機のレンズ部をぶつけたり、無理な力をかけないようご注意ください。

画像の互換性について

- 本機は、(社)電子情報技術産業協会(JEITA)にて制定された統一規格"Design rule for Camera File system"(DCF)に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影/修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本書中の画像について

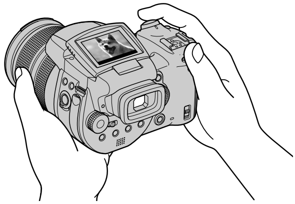
画像の例として本書に掲載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

表示言語について

本機のメニュー項目や警告などの表示は、日本語のみに対応しております。

ステップアップのための基礎知識

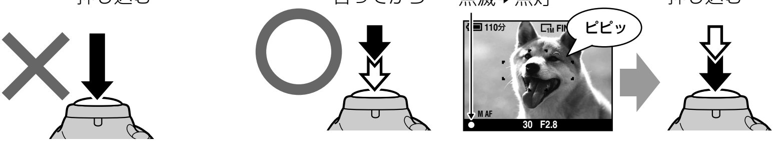
ピント　露出　色　画質



ここでは、サイバーショットを使いこなすための基礎について説明します。
本機に搭載された多彩な機能は、モードダイヤル（28ページ）や、メニュー（63ページ）などで使うことができます。

ピント　クリアな画像を撮るために

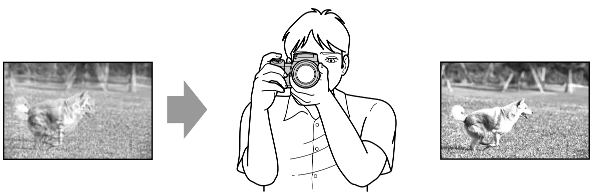
本機はシャッターを半押しすることで、ピントを自動で合わせます（オートフォーカス）。シャッターを半押しする習慣をつけましょう。



ピントがうまく合わないときは：→47ページ
ピントを合わせても画像がクリアでないときは、手ぶれを起こしている場合があります：→次の「手ぶれを起こさないためのヒント」をご覧ください。

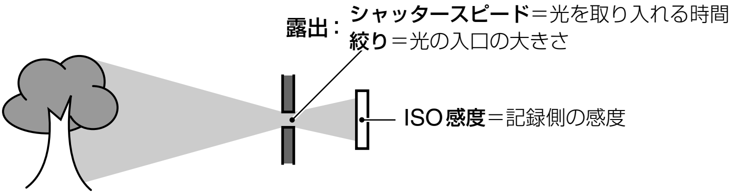
手ぶれを起こさないためのヒント

脇を締め、カメラをしっかり押さえてください。そばに木などがあれば寄りかかると安定します。また、三脚の使用、暗い場所でのフラッシュの使用もおすすめします。



露出　光の量を調整して好みの画像を撮る

露出と記録感度を調整することで、さまざまな仕上がりにすることができます。露出とはシャッターを切ったときに取り入れる光の量のことです。





露出オーバー
＝光が多すぎる
画面が白くなる



露出が適正



露出アンダー
＝光が少なすぎる
画面が暗くなる

本機は露出が適正になるように自動調整します（オート撮影時）が、以下の機能でお好みの状態に調整することができます。

マニュアル露出：
シャッタースピードと絞りを手動調整
→38ページ

EV補正：
自動調節した露出を補正→40ページ

測光モード：
露出を自動調整する場所を変更
→39ページ

ISO感度の調整

ISOとは、光を受け取る撮像素子（写真フィルムに相当する部分）の感度をあらわす単位です。同じ露出で撮影しても、設定によって仕上がる画像が変わります。ISO感度を調整→44ページ



ISO感度が高い
露出が足りない場所でも、明るめに記録することができます。
ただし、画像にざらつきが生じやすくなります。

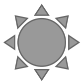
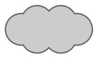
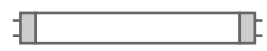


ISO感度が低い
ざらつきの少ない画像を撮ることができます。
ただし露出が足りない場合は、画像は暗めに記録されることがあります。

色　光の影響について

被写体の見た目の色は、その場の光の影響を受けます。

例：同じ色が光の影響で違って見えます

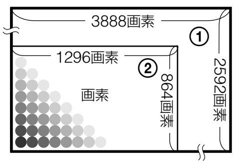
天候や照明	晴れ	曇り	蛍光灯	電球
				
光の特性	基準となる白	青みがかる	緑がかる	赤みがかる

本機はこの変化を適正にするように自動調整します(オート撮影時)が、[ホワイトバランス] (55ページ)でお好みの色に調整することができます。

画質　「画素」と「画像サイズ」について

デジタル写真は「画素(ピクセル)」という小さな点が集まって作られています。「画素」を多く使うと、写真は大きく、データ量は多く、画面は精細になります。「画像サイズ」とはこの画素数を指し、本機の画面では違いはわかりませんが、プリントしたりパソコンの画面で見たときに、写真の精細さやデータ処理時間に影響します。

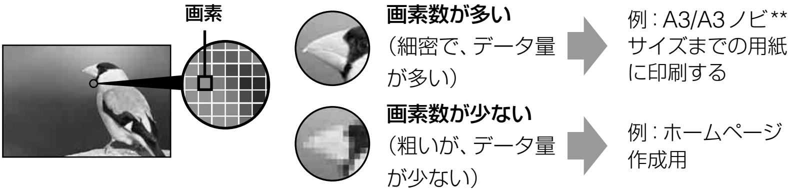
画素と画像サイズのイメージ



① 画像サイズ：10M
3888画素×2592画素＝10077696画素

② 画像サイズ：1M
1296画素×864画素＝1119744画素

用途にあわせてサイズを選ぶ（→*別冊「はじめに」手順4*）



お買い上げ時の設定は✓で示しています。

	静止画画像サイズ*		用途の例
✓	10M（3888×2592）	大きい	大切な画像を保存したり、A3/A3ノビ**サイズへの引き伸ばしやA4サイズ高精細プリントする場合
	7M（3264×2176）	↑	
	5M（2784×1856）		A4サイズプリントやA5サイズ高精細プリントする場合
	3M（2160×1440）	↓	
	1M（1296×864）	小さい	写真のL判でプリントする場合 より多くの画像を撮影する場合 ホームページ作成用の場合

*　本機の画像サイズはすべて、写真の印画紙、ポストカードなどと同じく3：2の横縦比です。

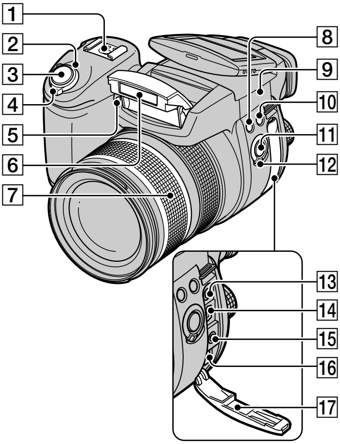
**　A3よりもひと回り大きいサイズです。A3サイズに余白をつけて印刷することができます。

画質（圧縮率）設定をあわせて使う（63ページ）

デジタル写真を保存するときの圧縮率を変更することができます。圧縮率を高くすると写真の精細さは落ちますが、データ量は少なくなります。

各部のなまえ

カッコ内の数字はページ数。



1 アドバンストアクセサリーシュー（52）

2 POWER（パワー）ランプ（→*別冊「はじめに」手順2*）

3 シャッターボタン（→*別冊「はじめに」手順5*）

4 POWER（パワー）スイッチ（→*別冊「はじめに」手順2*）

5 セルフタイマーランプ（→*別冊「はじめに」手順5*）/AFイルミネーター（73）

6 フラッシュ（→*別冊「はじめに」手順5*）

7 ズームリング（71、→*別冊「はじめに」手順5*）
24 28 35 50 70 100 120 Equiv.135
- 35 mm換算です。

8 ⚡（フラッシュ）ボタン（49）

9 ⌽ 距離基準表示（→*別冊「はじめに」手順5*）

10 WB（ホワイトバランス）ボタン（55）

11 PUSH（プッシュ） AUTO（オート）ボタン（47）

12 FOCUS（フォーカス）スイッチ（47）

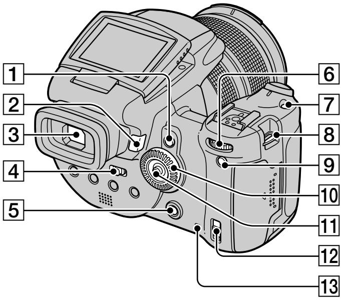
13 ACC（アクセサリー）端子（52）

14 ψ（USB）端子（89）

15 VIDEO（ビデオ） OUT（アウト）端子（108）

16 DC IN端子

17 端子カバー



1 AE LOCK（ロック）/（削除）ボタン（42、→*別冊「はじめに」手順6*）

2 ▶（再生）ボタン（→*別冊「はじめに」手順6*）

3 ファインダー（→*別冊「はじめに」手順5*）

4 FINDER（ファインダー）/AUTO（オート）/LCDスイッチ（→*別冊「はじめに」手順5*）

5 MENU（メニュー）ボタン（30）

6 メインコマンドダイヤル（27）

7 ISOボタン（44）

8 ショルダーストラップ取り付け部（17）

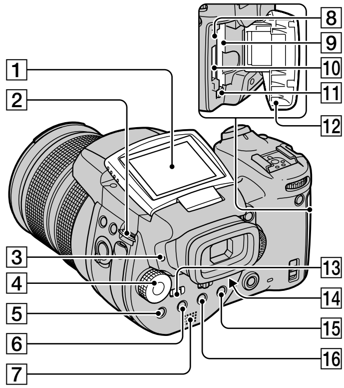
9 （画面表示切り換え）ボタン（21）

10 サブコマンドダイヤル（27）

11 マルチセレクター（▲/▼/◀/▶）（30）

12 （“メモリースティック”）/CF（CFカード）スイッチ（→*別冊「はじめに」手順3*）

13 アクセスランプ（→*別冊「はじめに」手順3*）



1 液晶画面（21）

2 ショルダーストラップ取り付け部（17）

3 ⚡（フラッシュチャージ）/CHG（チャージ）ランプ（オレンジ）（→*別冊「はじめに」手順1*）

4 モードダイヤル（28）

5 （測光モード）ボタン（39）

6 （連写）/BRK（ブラケット）ボタン（59、43）

7 スピーカー

8 RESET（リセット）ボタン（109）

9 CFカード挿入口（→*別冊「はじめに」手順3*）

10 “メモリースティック”挿入口（→*別冊「はじめに」手順3*）

11 CFカード取りはずしつまみ（→*別冊「はじめに」手順3*）

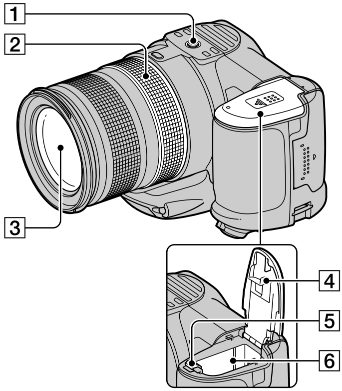
12 “メモリースティック”/CFカードカバー（→*別冊「はじめに」手順3*）

13 MONITOR（モニター）スイッチ（62）

[14] 視度調節レバー（→*別冊「はじめに」手順5*）

[15] 撮影時：Q（デジタルズーム）ボタン（71）
再生時：Q（再生ズーム）ボタン（→*別冊「はじめに」手順6*）

[16] （セルフタイマー）/ （インデックス）ボタン（→*別冊「はじめに」手順5、6*）



[1] 三脚用ネジ穴（底面）
- 三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5 mm未満の三脚を使う。
ネジの長さが5.5 mm以上の三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

[2] マニュアルフォーカスリング（47）

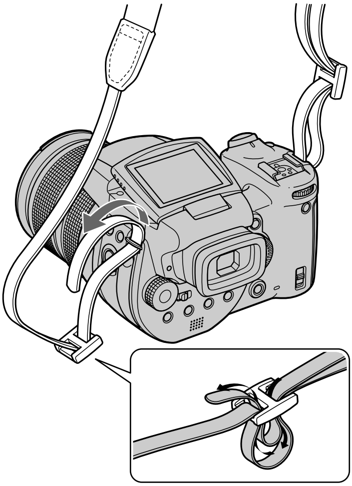
[3] レンズ

[4] バッテリーカバー（底面）

[5] バッテリー取りはずしつまみ（→*別冊「はじめに」手順1*）

[6] バッテリー挿入口（→*別冊「はじめに」手順1*）

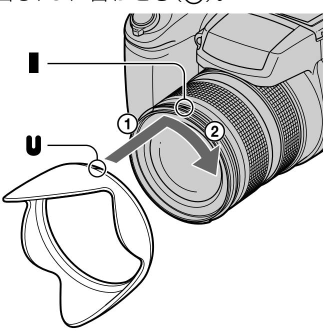
ショルダーストラップを取り付ける



レンズフードを取り付ける

屋外など明るいところで撮影するときは、不要な光による画質劣化をおさえるためにレンズフードを取り付けることをおすすめします。

レンズフードを下記の向きにして、レンズフードの U とレンズ部の▮を合わせて取り付け(①)、「カチッ」と音がするまで回し、●に合わせる(②)。

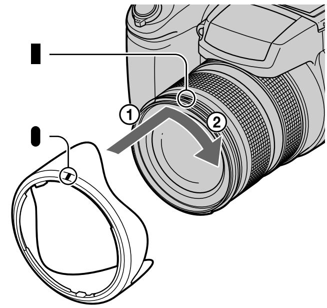


- レンズフードを取り付けていても、レンズキャップを付けられます。
- レンズフードを取り付けているとフラッシュやAFイルミネーターの発光がさまたげられます。

レンズフードを収納する

レンズフードを使わないときは、レンズフードの向きを逆に取り付けて固定することができます。

レンズフードを下記の向きにして、レンズフードの ▮ とレンズ部の▮を合わせて取り付け(①)、「カチッ」と音がするまで回し、●に合わせる(②)。



コンバージョンレンズ(別売り)を取り付ける

周囲をもっと広く撮りたいときや、遠くを拡大して撮りたいときに使います。

① レンズアダプター (別売り)を取り付ける。

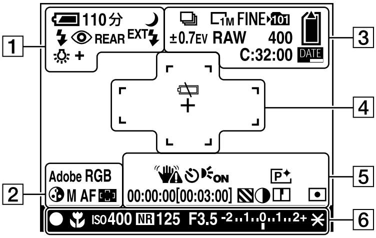
② コンバージョンレンズを取り付ける。

- 詳しくは、コンバージョンレンズの取扱説明書をご覧ください。

画面の表示

カッコ内の数字はページ数。

撮影時



1

表示	意味
110分	バッテリー残量(→*別冊「はじめに」手順1*)
	バッテリープリエンド(24、121)
	モードダイヤル(シーンセレクション)(29)
P S A M	モードダイヤル(28)
	カメラモード(→*別冊「はじめに」手順5*)
SL	フラッシュモード(49)
	赤目軽減(50)
REAR	フラッシュシンクロ(51)
EXT	外部フラッシュ (52)
W T ×1.3 S P	ズーム(71、→*別冊「はじめに」手順5*)
WB SET	ホワイトバランス(55)

2

表示	意味
Adobe RGB VIVID	色再現(57)
	彩度(64)
S AF M AF C AF	AFモード(46)
	AF測距枠表示(45)
1.0m	マニュアルフォーカス距離表示(47)

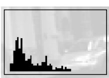
3

表示	意味
BRK	連写/ブラケットモード(59、43)
RAW	RAWモード(60)
10M 7M 5M 3M 1M	画像サイズ(→*別冊「はじめに」手順4*)
FINE STD	画質(63)
101	記録フォルダ(77)
	"メモリースティック"残量(22)
	CFカード残量(23)
±0.7EV	ブラケット設定値(43)
400	撮影残枚数(22)
C:32:00	自己診断表示(121)
DATE	日付/時刻表示(73)

4

表示	意味
	バッテリーエンド(24、121)
+	スポット測光照準(39)
	AF測距枠(45)
[ ]	プッシュ AF/拡大フォーカス枠(47)

5

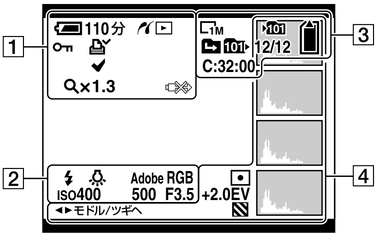
表示	意味
	手ぶれ警告(10) • 光量不足のため、手ぶれが起こりやすい状況を示しています。表示されていても撮影は可能ですが、光量を増やすためにフラッシュを使ったり、三脚などで本機をしっかりと固定することをおすすめします。
	セルフタイマー（→*別冊「はじめに」手順5*）
ON	AFイルミネーター（73）
 （18ページの画面イラストには出ていません）	ヒストグラム(21、40) • 表示不能のときは ⊗ が表示されます。
P	ピクチャーエフェクト(64)
00:00:00 [00:03:00]	TIME撮影(38)
	ゼブラ(41)

◑	コントラスト(65)
	シャープネス(65)
	測光モード(39)
DPOF （18ページの画面イラストには出ていません）	メニュー/ガイドメニュー(30)

6

表示	意味
●	AE/AFロック(→*別冊「はじめに」手順5*)
	マクロ(→*別冊「はじめに」手順5*)
ISO400	ISO感度(44)
NR	NRスローシャッター(36)
125	シャッタースピード(35)
TIME	TIME撮影(38)
F3.5	絞り値(36)
-2..1..0..1..2+	EVバー（40）
-3 . . 0 . . 3+	ホワイトバランス微調整バー（56）
✱	AEロック(42)
	マニュアルフォーカス(47)
LOCK	マニュアルフォーカスLOCK(47)

再生時



1

表示	意味
110分	バッテリー残量（→*別冊「はじめに」手順1*）
	PictBridge接続（103）
	再生モード（→*別冊「はじめに」手順6*）
	プロテクト（66）
	プリント予約マーク（106）
✔	PictBridgeプリント選択（103）
×1.3	ズーム（→*別冊「はじめに」手順6*）
	USBケーブル抜き禁止（104）

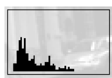
2

表示	意味
	フラッシュ
AWB WB	ホワイトバランス（55）
Adobe RGB VIVID	色再現（57）
ISO400	ISO感度（44）
500	シャッタースピード（35）
F3.5	絞り値（36）
101-0012	フォルダ-ファイル番号（66）

3

表示	意味
10M 7M 5M 3M 1M	画像サイズ（→*別冊「はじめに」手順4*）
101	記録フォルダ（77）
101	再生フォルダ（66）
	フォルダ移動（66）
	“メモリースティック”残量（22）
	CFカード残量（23）
8/8 12/12	画像番号/再生フォルダ内画像枚数
C:32:00	自己診断表示（121）

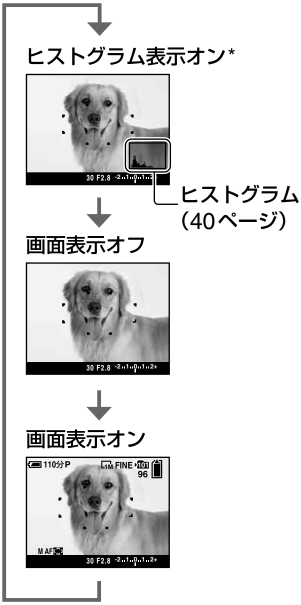
4

表示	意味
	測光モード（39）
+2.0EV	EV補正値（40、43）
	ゼブラ
	ヒストグラム（21、40） • 表示不能のときは ⊗ が表示されます。
2005 1 1 9:30 AM	画像の記録日時（73）
DPOF（左の画面イラストには出ていません）	メニュー/ガイドメニュー（30）
◀▶モドル/ツギへ	前後の画像を表示

画面表示を切り換える

(画面表示切り換え)ボタンを押すたびに、画面の表示が以下のように切り換わります。

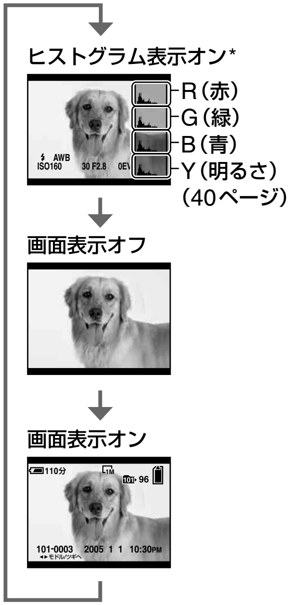
撮影時



* [ゼブラ]が[入]のときは、白とびを確認するための縞模様も表示されます(41ページ)。

- 下記の場合、ヒストグラムは表示されません。
  - 撮影時:メニュー表示時/デジタルズーム領域での撮影時
  - 再生時:メニュー表示時/インデックス再生時/再生ズーム時/静止画回転時
- 撮影時(シャッターボタンを押す前の画像)と再生時(シャッターボタンを押した後の画像)のヒストグラム/ゼブラは、下記のとき大きく異なります。
  - フラッシュを発光したとき
  - シャッタースピードが遅い、速いとき
- 他機で撮影した画像はヒストグラムが表示されないことがあります。

再生時



静止画の記録可能枚数

本機でフォーマットした記録メディアに記録できる撮影枚数の目安は次のとおりです。記録枚数は撮影状況によって異なる場合があります。

静止画の記録枚数（画質　上段：[ファイン]、下段：[スタンダード]）（単位：枚）

"メモリースティック"（通常撮影）

容量 / サイズ	32MB	64MB	128MB	256MB	512MB	1GB	2GB
10M	6	12	25	46	94	192	394
	12	25	51	92	188	384	789
7M	8	16	32	59	121	247	506
	15	30	60	109	223	456	934
5M	12	24	49	89	181	370	759
	24	49	98	178	363	741	1519
3M	20	41	82	148	302	617	1266
	40	82	164	297	605	1235	2532
1M	57	115	232	420	854	1743	3574
	122	246	493	892	1815	3705	7596

"メモリースティック"（RAWモード）

容量 / サイズ	32MB	64MB	128MB	256MB	512MB	1GB	2GB
10M	1	2	4	8	18	37	76
	1	2	5	9	20	41	84
7M	1	2	5	9	19	38	79
	1	2	5	10	20	41	85
5M	1	2	5	9	20	41	84
	1	2	5	10	21	43	89
3M	1	2	5	10	21	42	88
	1	2	5	10	21	44	91
1M	1	2	5	10	22	44	92
	1	3	6	10	22	45	93

マイクロドライブ（通常撮影）

サイズ＼容量	1GB	2GB	4GB	6GB
10M	213	405	811	1217
	426	811	1622	2434
7M	273	520	1041	1562
	505	961	1922	2883
5M	410	780	1561	2343
	821	1561	3123	4686
3M	684	1301	2603	3905
	1369	2603	5206	7810
1M	1933	3674	7349	11026
	4108	7809	15618	23431

マイクロドライブ（RAWモード）

サイズ＼容量	1GB	2GB	4GB	6GB
10M	41	78	156	235
	45	86	173	260
7M	43	81	163	245
	46	88	176	265
5M	45	86	173	259
	48	91	183	274
3M	47	90	181	271
	49	93	187	281
1M	49	94	189	284
	50	96	192	288

- RAWモード→60ページ
- 静止画の撮影残枚数が9999枚より多いときは、「>9999」と表示されます。
- 撮影した画像サイズをあとで変更できます（[リサイズ]、69ページ）。
- 当社の従来モデルで撮影した画像を再生すると、実際の画像サイズと異なって表示される場合があります。

バッテリー使用時間と撮影/再生枚数

右の表は撮影モードを[通常撮影]にし、満充電した付属のバッテリーで温度25℃の環境で使用した場合の目安です。また、撮影/再生枚数は記録メディアを交換しながら撮影/再生したときの目安です。ご使用の状況によって記載より少ない数値になる場合があります。

- 使用回数や経年変化により、バッテリー容量は低下します(128ページ)。
- 次のような場合は使用時間と撮影/再生枚数は、表示よりも少なくなります。
  - 周囲が低温のとき
  - フラッシュ多用時
  - 電源の入/切を繰り返したとき
  - ズームを多用したとき
  - [LCDバックライト]または[EVFバックライト]が[明]のとき
  - [AFモード]が[コンティニュアス]のとき
  - バッテリーの容量が低下したとき
- CFカードをお使いの場合は、使用時間と撮影/再生枚数が異なることがあります。

静止画撮影時

記録メディア	液晶画面/ファインダー	撮影枚数	使用時間
“メモリースティック”	液晶画面	約500枚	約250分
	ファインダー	約520枚	約260分
マイクロドライブ	液晶画面	約460枚	約230分
	ファインダー	約480枚	約240分

- 撮影時の数値は以下の設定で撮影した数値。
  - (画質):[ファイン]
  - [AFモード]:[モニタリング]
  - 30秒ごとに1回撮影
  - 1回ごとにズームをW側、T側に交互にいっぱいにする
  - 2回に1度、フラッシュを発光する
  - 10回に1度、電源を入/切する
- 測定方法はCIPA規格による。(CIPA:カメラ映像機器工業会、Camera & Imaging Products Association)
- 画像サイズによって撮影枚数/使用時間が変化することはありません。

静止画再生時

記録メディア	再生枚数	使用時間
“メモリースティック”	約11000枚	約550分
マイクロドライブ	約6600枚	約330分

- 約3秒ごとにシングル画面で順番に再生した数値。

操作の流れ

下記は、準備から撮影、再生するまでの操作の流れです。いつ、どんな操作をしたらよいのか分からないときは、下記に沿って操作してみてください。撮影に関しては、さまざまな機能を設定して撮影する流れになっています。

準備

- バッテリーの準備→*別冊「はじめに」手順1*
- 記録メディアの準備→*別冊「はじめに」手順3*
- 基本設定
  - パワーセーブ（72ページ）
  - 日付/時刻（73ページ）
  - LCDバックライト（81ページ）
  - EVFバックライト（81ページ）
  - 操作音（81ページ）
- 場面から選ぶ撮影方法（32ページ）

撮影前の確認

- ファインダー/液晶画面の選択→*別冊「はじめに」手順5*
- モニターモード（FRAMING/PREVIEW）の選択（62ページ）
- メディアの選択（"メモリースティック"/CFカード）→*別冊「はじめに」手順3*
- 画像サイズの選択→*別冊「はじめに」手順4*
- フリッカー軽減の設定（62ページ）

撮影方法の設定

- 撮影モード（60ページ）
- フォーカス（AFモード/AF測距枠設定）（45ページ）
- 測光モード（39ページ）
- ホワイトバランス（55ページ）
- 連写/ブラケット（59、43ページ）
- フラッシュモード（49ページ）

撮影直前の補正

- ズーム（71ページ）
- ホワイトバランス微調整（56ページ）
- EV補正（40ページ）
- フラッシュ調光（64ページ）
- フォーカス（47ページ）
- フォーカス枠位置（47ページ）

撮影直前の設定

- 最終画像確認（ヒストグラム/画面表示）（40ページ）
- セルフタイマー →*別冊「はじめに」手順5*
- AEロック（42ページ）

撮影

- シャッターボタン半押し/深押し→*別冊「はじめに」手順5*

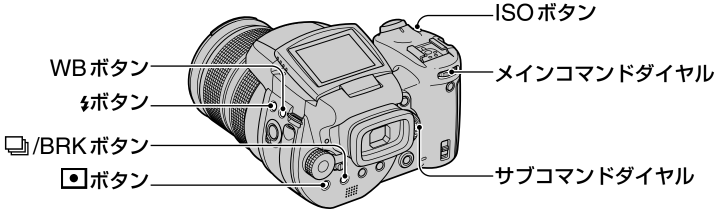
撮影画像の確認

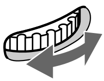
- オートレビュー（74ページ）
- 再生→*別冊「はじめに」手順6*
- 拡大表示→*別冊「はじめに」手順6*
- インデックス表示→*別冊「はじめに」手順6*
- 削除→*別冊「はじめに」手順6*

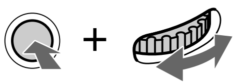
基本操作

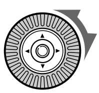
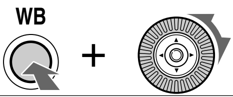
コマンドダイヤルの使いかた

数値設定や設定を選択するときなどに使います。



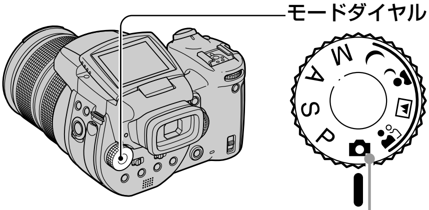
メインコマンドダイヤル	
値を大きく/右へ移動  値を小さく/左へ移動	プログラムシフト(Pモード)(34ページ) シャッタースピード(Sモード)(35ページ) 絞り(Aモード)(36ページ) シャッタースピード(Mモード)(38ページ)
	再生画像の戻し/送り→*別冊「はじめに」手順6*

他のボタンを押しながら		
		フラッシュモード(49ページ)
		ホワイトバランスモード(55ページ)
		測光モード(39ページ)
		連写/ブラケットモード(59、43ページ)
		ISO感度(44ページ)

サブコマンドダイヤル	
値を小さく/戻り  値を大きく/送り	露出補正(P/S/A/☽/人☽/▲/人人 モード)(40ページ) 絞り(Mモード)(38ページ)
	インデックス時のページ送り/戻し→*別冊「はじめに」手順6* 再生ズームをする、解除する→*別冊「はじめに」手順6* 再生ズーム倍率変更→*別冊「はじめに」手順6*
他のボタンを押しながら	
	ホワイトバランス微調整(56ページ)

モードダイヤルの使いかた

モードダイヤルを、操作したい機能に合わせて設定します。
各機能やメニュー、セットアップの設定時にお使いになれるモードを見出しの横に白いアイコンで示しています。



静止画撮影モード

📷：静止画オート撮影
自動設定で簡単に撮影できます。→*別冊「はじめに」手順5*

シーンセレクションアイコン：シーンセレクション
あらかじめ、撮影状況に合わせて用意された設定で撮影できます(29ページ)。

P　：プログラムオート撮影
露出(シャッタースピードと絞り)は本機が自動設定します。

S　：シャッタースピード優先撮影
シャッタースピードを手動設定します(35ページ)。

A　：絞り優先撮影
絞りを手動設定します(36ページ)。

M　：マニュアル露出撮影
露出(シャッタースピードと絞り)を手動設定します(38ページ)。

シーンセレクション

① シーンセレクションのいずれかを選ぶ。

② 撮影する。

			
ポートレートモード	**風景モード**	**夜景＆人物モード***	**夜景モード***
背景をぼかし、被写体の人物を際だたせた画像を撮る。	遠景にピントを合わせ、遠くの風景などを撮る。	夜景をバックに、手前の人物を撮る。	暗い雰囲気を損なわずに、遠くの夜景を撮る。

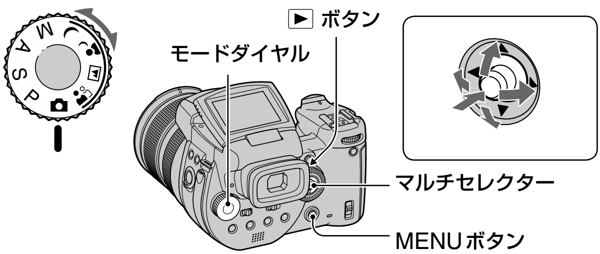
シーンセレクションでは、シーンに合わせて最適な撮影ができるよう、機能設定の組み合わせがあらかじめ決まっています。●はお好みの設定ができる機能です。

	マクロ	フラッシュモード	ホワイトバランス	連写/ブラケット
ポートレート	●	●	●**	●
風景	–	⚡/⚡◉/⊘	●**	●
夜景＆人物	●	⚡SL/⚡◉SL	AWB/⚡WB/ワンプッシュ	–
夜景	–	⊘	●	–

* シャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。

** フラッシュモードが ⚡(強制発光)、⚡◉(強制発光赤目)のときは、選択が解除されオートになります(⚡WB (フラッシュ)とワンプッシュ(ワンプッシュ)のときは除く)。

メニューの使いかた



1 **電源を入れる。**

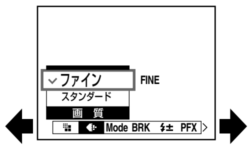
2 **撮影時メニュー:モードダイヤルを合わせる。**
再生時メニュー:▶ボタンを押す。

モードダイヤルの位置と撮影/再生モードによって、使用できる項目が異なります。

3 **MENUボタンを押し、メニューを表示する。**

4 **マルチセレクターを◀/▶に動かし、設定するメニュー項目を選ぶ。**

- 設定するメニュー項目がかくれている場合は、◀/▶に動かしつづけて表示する。
- 再生モードのときは、項目選択後、中央を押す。



5 **▲/▼に動かして、設定を選ぶ。**

選ばれた設定が拡大表示されて設定される。

6 **MENUボタンを押し、メニュー表示を消す。**

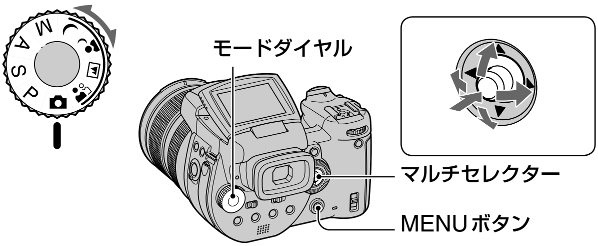
撮影モードにするには

シャッターボタンを半押ししても、メニュー表示を消すことができます。

- グレー表示の項目は設定できません。

(セットアップ)画面の使いかた

(セットアップ)画面を使うと、本機のお買い上げ時の設定を変更できます。



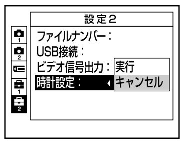
1 電源を入れる。

2 MENUボタンを押し、メニューを表示する。

3 マルチセレクターを▶に動かし、(セットアップ)の位置に進み、もう1度▶に動かす。

4 マルチセレクターを▲/▼/◀/▶に動かし、設定したい項目を選ぶ。

選ばれた設定の枠が黄色に変わる。



5 中央を押して設定(実行)する。

(セットアップ)画面を終了するには、MENUボタンを押す。

(セットアップ)画面からメニューに戻るには、マルチセレクターを◀に繰り返し動かす。

• シャッターを半押しすると、(セットアップ)画面が終了して撮影モードに戻ります。

メニューが表示されていないときは

MENUボタンを長押し(約1.5秒)しても(セットアップ)画面になります。

設定変更を中止するには

[キャンセル]が選択項目にある場合は, それを選んでマルチセレクターの中央を押す。ない場合は、設定しなおす。

• 設定は、電源を切ってからも保持されます。

場面から選ぶ撮影方法

オートモードで撮影することに慣れたら、いろいろな撮影場面で、設定を変えて撮影してみましょう。ここでは、いくつかの撮影場面を参考に、代表的な撮影方法を紹介します。

Q 背景をぼかしたポートレートを撮るには？



➡絞り優先で撮る（36ページ）

背景をぼかして被写体を強調したい場合は、絞り値を手動で設定して撮影します。絞りを開く（絞り値を小さくする）ほど、ピントが合う範囲が狭くなるので、背景がぼけます。

Q 逆光でポートレートを撮るには？



➡フラッシュモードを選ぶ（49ページ）

明るい場所では人物が暗く撮影されることがあります。これは背景が被写体よりも明るいためです。この場合は、フラッシュを ⚡（強制発光）にすると、背景と被写体を明るく撮影することができます。

• フラッシュが届く範囲で使用できます。

Q 夜景を撮るには？



➡シャッタースピード優先で撮る（35ページ）

静止画オート撮影でフラッシュを発光するとシャッタースピードが制限され、フラッシュも届かないため夜景がきれいに写りません。シャッタースピードを手動で遅くしてフラッシュを ⊘（発光禁止）にし、EV補正で明るさを抑えると、夜景でもきれいに撮ることができます。

Q フラッシュを使用しないで撮影するには？



➡感度を変える（44ページ）

フラッシュを使用できなかったり、シャッタースピードを遅くできない場合は、ISO感度を上げて撮影してみましょう。ISO感度を上げると周囲の光をいかして撮影することができます。手ぶれ警告表示（123ページ）が出ないようなシャッタースピードになるようにISO感度を設定することをおすすめします。

Q 動いている被写体を撮るには？



➡シャッタースピード優先で撮る（35ページ）

動きのある人物や物を撮影する場合は、シャッタースピードを速くして動作の一瞬をとらえたり、シャッタースピードを遅くして、意図的に流れるような画像にします。シャッタースピードを活用して、肉眼では見えない瞬間を表現してみましょう。

Q きれいな夕焼けを撮るには？



➡色合いを調節する（55ページ）

撮影した夕焼けの画像が自分の好みの色でない場合は、ホワイトバランスを変えて撮影してみましょう。ホワイトバランスを☀（太陽光）にすると夕焼けの赤みを強調することができます。

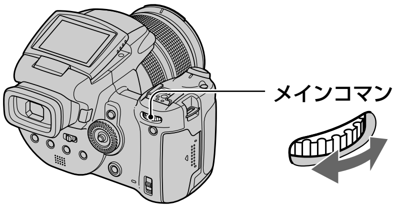
露出の設定

プログラムオートで撮る

プログラムオート撮影では、静止画オート撮影（モードダイヤル 📷）と同様に被写体の明るさに応じてシャッタースピードと絞り値を自動的に設定します。また、静止画オート撮影では、設定できない撮影機能をメニューで設定できます（134ページ）。

プログラムシフト

自動で設定されたシャッタースピードと絞り値の組み合わせを、露出を固定したまま変更することができます。



① メインコマンドダイヤルでシャッタースピードと絞り値の組み合わせを選ぶ。
プログラムシフト中は「P*」が表示されます。

② 撮影する。

プログラムシフトを解除するには、メインコマンドダイヤルを回して表示の「P*」を「P」に戻す。

- シャッターボタンを半押ししているときは、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを選べません。
- 明るさが変わると絞り値とシャッタースピードはプログラムシフトの組み合わせを保持したまま変化します。
- 撮影状況によっては絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更できないことがあります。
- フラッシュモードの設定を変更した場合は、プログラムシフトが解除されます。
- モードダイヤルを「P」以外にする、測光モードを切り換える、または電源を切ると設定は解除されます。

シャッタースピード優先で撮る

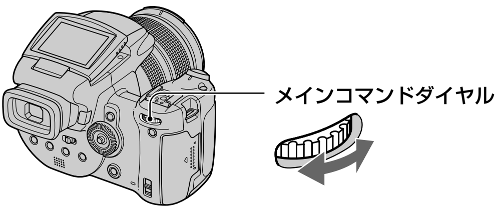
シャッタースピードを手動で調整できます。
シャッタースピードを速くすると動いているものが止まっているように写り、シャッタースピードを遅くすると動いているものが流れるように写ります。
被写体の明るさに応じた適正露出になるように、絞り値は自動調整されます。



速いシャッタースピード



遅いシャッタースピード



① メインコマンドダイヤルでシャッタースピードを選ぶ。
以下の範囲で選べます。
ISOが[160]～[800]のとき：1/2000～30秒
ISOが[1600]～[3200]のとき：1/2000～8秒

② 撮影する。

- 1秒以上は「1"」のように「"」が表示されます。
- シャッタースピードを遅くするときは手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。
- 設定後に適正露出が得られない場合、シャッターボタンを半押しすると、画面の設定値表示が点滅します。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。
- フラッシュは（強制発光）、（強制発光赤目）または（発光禁止）になります。
- シャッタースピードが速いときは、フラッシュを発光しても、明るさが充分でないことがあります。

NRスローシャッター

撮影した画像からノイズを低減し、きれいな画像を得る機能です。一定*のシャッタースピードを選択すると、自動的にNRスローシャッター機能が働き、シャッタースピード表示の前に「NR」が表示されます。



シャッターボタンを深く押し込む。 → このとき画面は黒くなります。 → 「処理中」の表示が消えると、画像が記録されます。

* ISOが[160] ～ [400]のとき：1/6秒またはそれよりも遅い場合
ISOが[800] ～ [3200]のとき：1/25秒またはそれよりも遅い場合

- 手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。
- 設定されているシャッタースピードの時間だけノイズを低減する処理を行うため、シャッタースピードが遅く設定されているときは、処理に時間がかかります。

撮影のテクニック



走っている人や車、波しぶきなどを高速のシャッタースピードで撮ると、肉眼ではとらえることができない瞬間を撮影できます。



また、低速のシャッタースピードで川の流れなど動きのあるものを撮影すると、より自然な流動感のある画像になります。この場合手ぶれしないように三脚のご使用をおすすめします。

- 本機を手で持って撮影する場合は、（手ぶれ警告）表示が出ない範囲でシャッタースピードを設定することをおすすめします。

絞り優先で撮る

P S A M

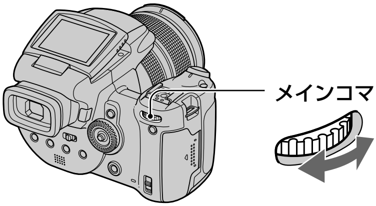
レンズに入る光量を手動で調整できます。
絞りを開く（絞り値を小さくする）と光量が増えます。ピントの合う範囲が狭くなり、被写体のみがくっきり写ります。絞りを閉じる（絞り値を大きくする）と光量が減ります。ピントの合う範囲が広がり、画面全体がシャープに写ります。
被写体の明るさに応じた適正露出になるように、シャッタースピードは自動調整されます。



絞りを開く



絞りを閉じる



① メインコマンドダイヤルで絞り値を選ぶ。
– ズームがW側いっぱいのときは、F2.8からF16
– ズームがT側いっぱいのときは、F4.8からF16

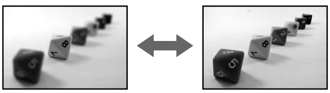
② 撮影する。

- シャッタースピードは1/2000秒から8秒の範囲で自動調整されます。
- 設定後に適正露出が得られない場合、シャッターボタンを半押しすると、画面の設定値表示が点滅します。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。
- フラッシュは ⚡(強制発光)、⚡👁(強制発光赤目)、⚡SL(スローシンクロ)、⚡👁SL(スローシンクロ赤目)または ⓿(発光禁止)になります。

撮影のテクニック

絞りの重要な効果であるピントの合う範囲のことを「被写界深度」といいます。被写界深度は絞りを開けると浅く(ピントの合う範囲は狭く)なり、絞りを閉じると深く(ピントの合う範囲が広く)なります。

絞りを開く
背景をぼかして被写体をくっきり写す



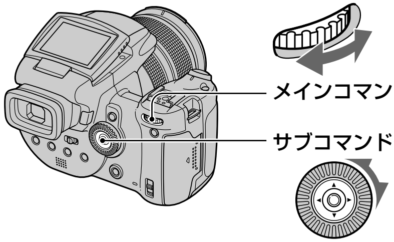
絞りを閉じる
被写体と背景とにピントが合うように写す

画像全体をシャープにするのか、特定部分だけを強調するのか、撮影の意図によって絞りの効果を上手に使い分けてください。

マニュアル露出で撮る

P S A M

シャッタースピードと絞り値を、手動で調整できます。
1度設定した値は電源を切っても保持されます。希望の露出を決めておけば、後でモードダイヤルを「M」にして同じ露出を再現することができます。



① メインコマンドダイヤルでシャッタースピードを選ぶ。
② サブコマンドダイヤルで絞り値を選ぶ。
設定した値と本機が判断した適正露出の差が画面上にEVバー(40ページ)で表示される。0EVが本機が最適と判断した値。

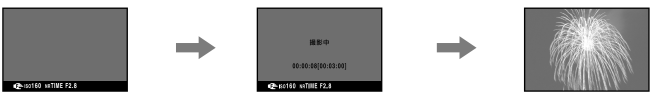
100 F3.5 -2..1..0..1..2+	50 F3.5 -2..1..0..1..2+	40 F3.5 -2..1..0..1..2+
露出アンダー	適正露出	露出オーバー

③ 撮影する。

- 設定後に適正露出が得られない場合、シャッターボタンを半押しすると、画面の設定値表示が点滅します。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。
- フラッシュは(強制発光)、(強制発光赤目)または(発光禁止)になります。

TIME撮影について

任意の時間で露光できます。例えば、打ち上げ花火などを撮影するときに、打ち上がった瞬間にシャッターボタンを押し込んで露光を開始し、花火が終わったときにシャッターを切る、などの撮影ができます。



① シャッタースピードの[30″]の次に表示される[TIME]を選ぶ。
- ISOが[1600]または[3200]のときは、[8"]の次に[TIME]が表示されます。

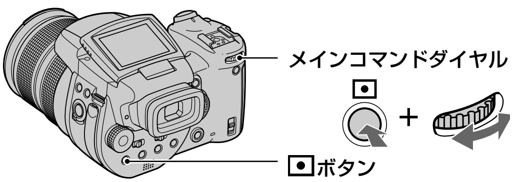
② シャッターボタンを1度押すと露光を開始し、2度目にシャッターを押すと露光が終了する。

- ISOは[160]になります。
- TIME撮影できる時間は最大3分までです。3分たつと自動でシャッターが切れます(バッテリー残量が少ないときは約30秒でシャッターが切れます)。
- 三脚(別売り)のご使用をおすすめします。

測光モードを選ぶ

P S A M

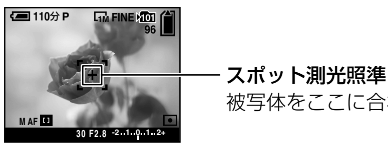
本機が自動で露出を決めるとき、画面のどの部分で光を測るか(測光)を設定します。





(測光モード)ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回し、希望の設定を選ぶ。

(✓:お買い上げ時の設定)

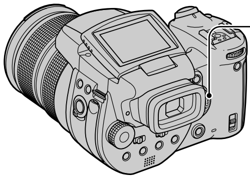
✓	**マルチ (マルチパターン測光)**	画面を多分割して測光し、全体のバランスをとって自動調節する。
	(中央重点測光)	画面の中央部に重点をおいて測光し、中央部付近の明るさを基準に露出を決める。
	(スポット測光)	被写体の一部分だけで測光する。  • 逆光にある被写体や、背景と被写体のコントラストが強いときに便利です。

- 露出について→11ページ
- (スポット測光)や(中央重点測光)の場合、測光する場所とフォーカス位置を合わせたいときは、AF測距枠を (中央重点AF)にすることをおすすめします(45ページ)。

露出を手動補正する－EV補正

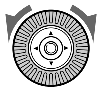
P S A M

本機が決定した露出を手動で変えることができます。被写体と背景のコントラスト（明暗の差）がきわめて大きい場合など、適正な露出が得られないときに使用します。



サブコマンドダイヤル

－方向 ＋方向





EVバー

サブコマンドダイヤルで補正値を選ぶ。



－方向 ＋方向

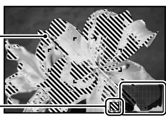
＋側：画像が明るくなる。
0EV：本機が自動設定した露出。
－側：画像が暗くなる。

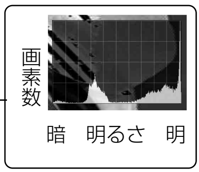
- 露出について→11ページ
- 1/3EV単位で露出値を調節できます。
- 被写体が極端に明るいときや暗いとき、またはフラッシュ撮影時は、補正が効かないことがあります。

画面を確認しながらEV補正を行う（ヒストグラム/ゼブラパターン）

ゼブラパターン

ゼブラアイコン





ヒストグラム

ヒストグラムは、明るさを示すグラフです。□（画面表示切り換え）ボタンを繰り返し押すと、画面内に表示されます。表示が右寄りなら明るめの画像、左寄りなら暗めの画像です。ヒストグラムで露出を確認しながらEV補正します。

- 下記の場合もヒストグラムが表示されますが、EV補正はできません。
  －モードダイヤルが「📷」、「M」のとき
  －静止画シングル画面再生時

ゼブラパターン

(セットアップ)画面で[ゼブラ]を[入]にして(81ページ)、ヒストグラムを表示すると、白とびしている部分(輝度が一定レベルを超えて階調が失われている部分)にゼブラパターン(縞模様)が表示されます。白とびしている箇所を確認しながらEV補正します。

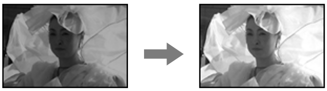
- ゼブラパターンは実際の画像には記録されません。

撮影のテクニック

撮影時、本機は自動で露出を設定しています。

逆光の人物や雪景色などのように全体が白っぽい被写体を撮影すると、本機が明るいと判断して、露出が暗めになることがあります。その場合は＋方向に補正すると効果的です。

＋方向に補正



また、画面いっぱいに黒い被写体を撮影するときは、本機が暗いと判断して、露出が明るめになることがあります。その場合は－方向に補正すると効果的です。

－方向に補正



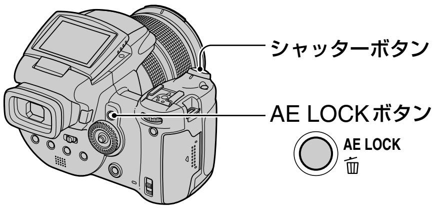
露出オーバー/露出アンダーになり過ぎないように(白とびしたり真っ黒につぶれないように)、ヒストグラムを見ながら補正するとよいでしょう。

どの明るさが良いかは好みによるので、露出を変えていろいろな画像を試してみましょう。

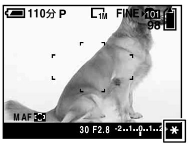
露出を固定して撮る－AEロック

P S A M

露出を先に決めてから撮りたい構図にして撮影できます。被写体と背景のコントラストが極端に強いときや、逆光時の撮影などに有効です。



① 露出を測光したい被写体に本機を向け、AE LOCKボタンを押す。
露出が固定され、✱マークが出ます。



② 希望の構図にして、シャッターボタンを半押しする。
フォーカスを調節します。

③ シャッターボタンを深く押し込む。

- AEロックは、シャッターボタンの半押しをやめたり、撮影をすると解除されます。AEロックを保持したい場合は、AE LOCKボタンを押し続けたままにしておくと、次の撮影でもロックした状態で撮影可能です。

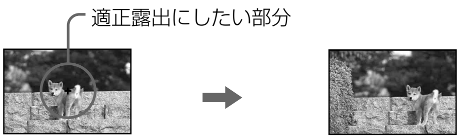
撮影のテクニック

撮影時、本機は自動で露出を設定しています。

本機は被写体に合わせて自動で露出を調節しているため、構図を変えた場合、背景などによって被写体の明るさが変わることがあります。AEロックを使用すると、明るさに左右されずに撮りたい構図で撮影できます。

① 露出を決めるために中央部重点測光やスポット測光で適正露出にしたい部分を測光する。

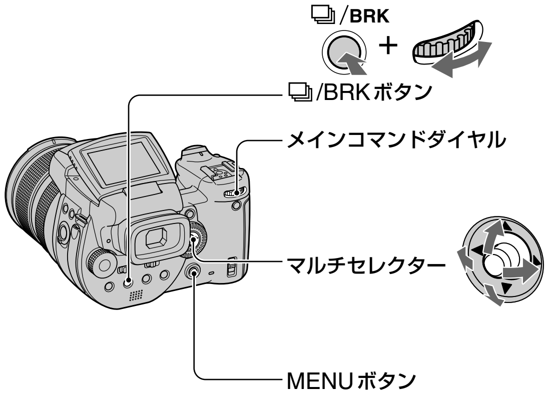
② AE LOCKボタンを押し、露出を固定してから構図を変えて撮影する。



最適な露出を探す－ブラケット　P S A M

自動的に決定された露出とは別に、＋方向／－方向に補正した露出での画像も同時に記録します。
被写体の明るさによってうまく撮影できないときは、ブラケット撮影で露出を変えながら撮影すれば、撮影した後で最適な露出の画像を選ぶことができます。







① /BRKボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回し、[BRK]を選ぶ。
② MENUボタンを押す。
③ マルチセレクターを◀/▶に動かして[BRK]（ブラケット設定）、▲/▼に動かして露出補正量を選ぶ。

（✓：お買い上げ時の設定）

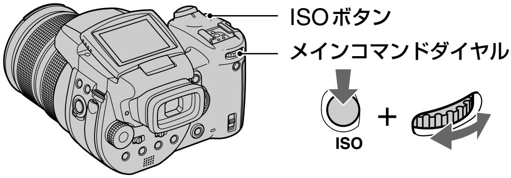
	±1.0EV	露出値を上下に1.0EVずらして撮影する。
✓	±0.7EV	露出値を上下に0.7EVずらして撮影する。
	±0.3EV	露出値を上下に0.3EVずらして撮影する。

- フラッシュは (発光禁止)になります。
- フォーカスとホワイトバランスは、最初の1枚目に設定された値に固定されます。
- EV補正をしているときは(40ページ)、補正した明るさを基準に露出を変えて撮影されます。
- 撮影の間隔は約0.32秒です。
- 被写体が明るすぎたり暗すぎたりするときは、設定した補正量で撮影できない場合があります。

• シャッタースピードは以下の通り制限されます。
ISOが[160] ～ [400]のとき：1/2000 ～ 1/8秒
ISOが[800] ～ [3200]のとき：1/2000 ～ 1/30秒

感度を変える－ISO　P S A M

光に対する感度をISOという単位で設定します。数値が大きいほど高感度になります。



ISOボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回し、希望の設定を選ぶ。

（✓：お買い上げ時の設定）

	3200	暗い場所や高速で移動する被写体には大きい値を、高画質で撮るには小さい値を設定する。
	1600	
	800	
	400	
	200	
	160	
✓	AUTO	ISOを自動調節する。

• ISO感度について→11ページ
• 高感度になるほどノイズ感が増します。
• シーンセレクションのときは、ISOは[AUTO]になります。

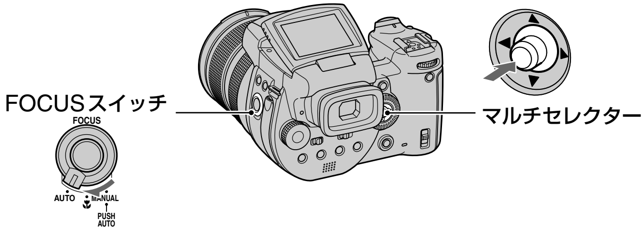
ピントの設定

オートフォーカスの方法を選ぶ　P S A M

AF測距枠とAFモードを設定できます。

ピント合わせの測距枠を選ぶには－AF測距

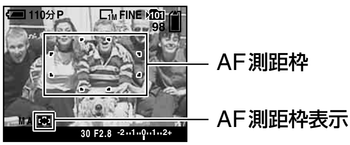
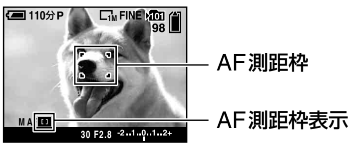
ピント合わせの方法を変更します。ピントが合いにくいときなどに使います。



① FOCUSスイッチを「AUTO」にする。

② マルチセレクターの中央を繰り返し押して、希望のモードを選ぶ。

（✓：お買い上げ時の設定）

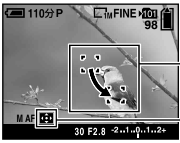
✓	（マルチポイントAF）	画面全体を基準に、自動ピント合わせする。 モードダイヤルが「」のときは、マルチポイントAFに固定されます。 • 被写体が中央にないときなどに便利です。 
	（中央重点AF）	画面中央付近の被写体に自動ピント合わせする。 • 中央部分の被写体をねらってピント合わせをするときに便利です。AFロックと併用して好きな構図で撮影が可能です。 

	（フレキシブルスポットAF）	画面上の好きなところに測距枠を移動し、非常に小さな被写体や狭いエリアをねらってピントを合わせる。 • 三脚を使用した撮影で被写体が中央部にない場合などに便利です。

• AFとは、「Auto Focus」の略で、自動ピント合わせ機能のこと。
• デジタルズームやAFイルミネーターを使用するときは、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。この場合、 または 、 は点滅し、AF測距枠は表示されません。

フレキシブルスポットAFを設定するには

① マルチセレクターの中央を繰り返し押して、（フレキシブルスポットAF）を選ぶ。
② マルチセレクターを▲/▼/◀/▶に動かしてピントを合わせたい位置に測距枠を移動する。

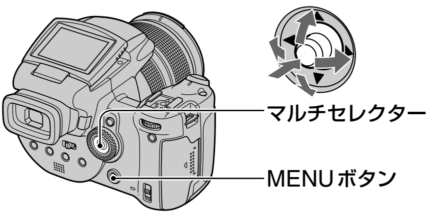


シャッターボタンを半押ししてピントが合うとAF測距枠の色が白から緑色に変わります。

• 動いている被写体の場合では手ぶれの影響を受けやすいため、測距枠から被写体がはずれないようにご注意ください。

ピント合わせの動作を選ぶには－AFモード

自動ピント合わせ（オートフォーカス）の種類を選びます。



① （セットアップ）画面を表示する（31ページ）。
② マルチセレクターを▲に動かして［］（カメラ1）、▶/▲に動かして［AFモード］を選ぶ。
③ マルチセレクターを▶/▲/▼に動かして希望のモードを選び、中央を押す。

（✓：お買い上げ時の設定）

	シングル（S AF）	シャッターボタンを半押しすると自動ピント合わせする。動きのない被写体を撮影するときに便利。
✓	**モニタリング（M AF）**	シャッターボタンを半押しする前から自動ピント合わせする。ピント合わせの時間を短くできる。 • ［シングル］よりもバッテリーの消耗が早くなることがあります。
	コンティニュアス（C AF）	シャッターボタンを半押しする前からピント合わせを行い、ロック完了後もピント合わせを行う。被写体が動いた場合でもそのまま撮影が可能。 • 他のAFモードに比べてバッテリーの消耗が早くなることがあります。

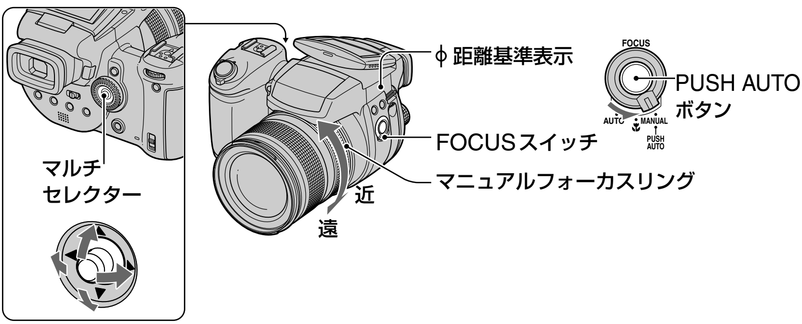
［コンティニュアス（C AF）］について

- 動きの速すぎる被写体の場合、追従できない場合があります。
- AF測距枠は中央重点AFになります（45ページ）。
- 下記の場合は、ロック完了後、ピント合わせを行いません。「C AF」が点滅し、モニタリングAFと同じ動作になります。
  – 暗い状況下での撮影
  – スローシャッターでの撮影
- ピントが合ったときのロック音は鳴りません。
- セルフタイマー撮影のときはシャッターボタンを深く押し込むとピントが固定されます。

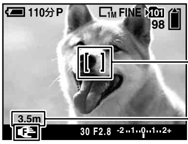
手動でピントを合わせる

P S A M

網やガラス越しの撮影などオートフォーカスが効きにくいときは、手動でピントを合わせると便利です。



① FOCUSスイッチを「MANUAL」にする。
とプッシュ AF/拡大フォーカス枠が表示される。



プッシュ AF/拡大フォーカス枠

ϕ 距離基準表示からの距離
T側　約40cm ～∞
W側　約35cm ～∞

② マルチセレクターを▲/▼/◀/▶に動かしてプッシュ AF/拡大フォーカス枠をピントの合わせたい位置に移動する。
拡大フォーカス機能(75ページ)によりフォーカス枠部分が2倍に拡大され(は黄色)、ピントを合わせやすくなります。マニュアルフォーカスリングの操作をやめると、拡大表示は約2秒後に解除されます(は白色)。

③ マニュアルフォーカスリングを回し、ピントを合わせる。
が点滅したときはピント調節の限界を表します。

- マニュアルフォーカスの距離設定は多少の誤差を含みます。
- デジタルズーム時は、プッシュ AF/拡大フォーカス枠は表示されません。
- 拡大フォーカス機能を解除するには→75ページ

ピント合わせに便利な機能

PUSH AUTOボタンを押すと、プッシュ AF/拡大フォーカス枠付近の被写体にピントが合います(はLOCK)。狙った部分のピント合わせが簡単にできるので、マニュアルフォーカスリングで微調整する前の準備としてお使いになれます。





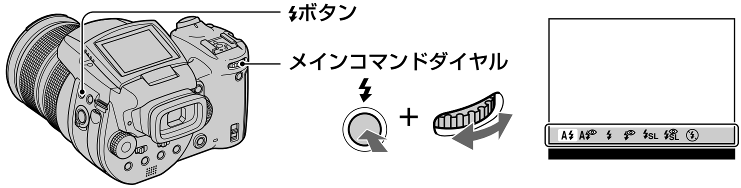
マニュアルフォーカスLOCK表示
点滅➡点灯(約5秒間)

フラッシュ

フラッシュモードを選ぶ

P S A M

通常は自動で発光しますが、フラッシュモードを意図的に変えて撮影することができます。



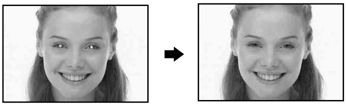
(フラッシュ)ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、希望のモードを選ぶ。

(✓:お買い上げ時の設定)

✓	**A(オート)**	光量不足/逆光と判断したとき発光。 • プログラムオート撮影のときは、逆光でも自動発光しません。
	A(オート赤目)	オートで赤目軽減する。
	(強制発光)	周囲の明るさに関係なく発光する。
	(強制発光赤目)	強制発光で赤目軽減する。
	SL(スローシンクロ)	暗い場所ではシャッタースピードを遅くし、フラッシュが届かない背景も明るく撮影。
	SL(スローシンクロ赤目)	スローシンクロで赤目軽減する。
	(発光禁止)	常に発光しない。

- 連続してフラッシュ撮影をした直後は、フラッシュ発光部の表面が熱くなることがありますのでご注意ください。
- ϕ 距離基準表示からのフラッシュ推奨撮影距離はW側で約0.5 m ～ 8.5 m、T側で約0.4 m ～ 5.0 mです([ISO]が[AUTO]のとき)。
- レンズフード(付属)やレンズアダプター (別売り)を付けているとフラッシュの発光がさまたげられます。
- SL(スローシンクロ)またはSL(スローシンクロ赤目)、(発光禁止)のとき、暗い場所ではシャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。
- フラッシュを充電している間は、/CHG ランプが点滅します。充電が完了すると消灯します。
- [フラッシュレベル] (64ページ)でフラッシュ発光量を調節できます。
- 暗い場所ではフォーカス合わせのために補助光が発光されます。発光したくないときは[AFイルミネーター]を[切]にしてください(73ページ)。
- 本機には外部フラッシュを取り付けることができます(52ページ)。

[赤目軽減]について



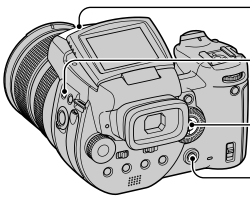
フラッシュ撮影時、目が赤く写るのを抑制します。画面に👁(赤目軽減)が表示されます。

- フラッシュが2回以上予備発光します。
- シャッターが切れるまで約1秒かかるので、カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。また、被写体が動かないようにしてください。
- 赤目軽減の効果には個人差があります。また被写体までの距離や、予備発光を見ていないなどの条件によって、効果が表れにくいことがあります。

手動でフラッシュを発光する ーポップアップフラッシュモード

📷	P	S	A	M	☽	人☽	風景	人物

自分で希望したときだけフラッシュを発光することができます。🧰(セットアップ)画面の[ポップアップフラッシュ]を[マニュアル]にすると(75ページ)、発光部を上げたときは常に発光、閉めたときは常に発光禁止になります。



① ⚡ボタンを押して、フラッシュ発光部を持ち上げる。
② フラッシュモードを選択する(49ページ)。
③ 撮影する。

- ☽(夜景モード)または連写/ブラケットのときは発光しません。
- フラッシュを発光させたくない場合はフラッシュ発光部を閉じておきます。
- [ポップアップフラッシュ]をオートモードに戻すときは、🧰(セットアップ)画面で[オート]を選んでください。

撮影のテクニック

フラッシュを活用すると表現の幅が広がります。



（強制発光）、（強制発光赤目）に設定すると、逆光時に被写体が暗くならずに撮影できます。

また、人物の瞳にフラッシュの光が写りこみ輝いて見える効果もあります。



フラッシュモードを（オート）、（オート赤目）に設定していると、撮影者の意図に関わりなくフラッシュが発光されてしまうことがあります。この明るさのとき、意図的に（発光禁止）にすると、シャッタースピードが遅くなり、自動的にスローシャッターに設定されます。自動車の軌跡や光の残像を撮る場合や、夕景シーンを撮る場合などに効果的です。

手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。



（スローシンクロ）、（スローシンクロ赤目）は、夕暮れ時に人物を撮影するときなどに効果的です。

人物はフラッシュで明るくなり、背景は長時間露光できれいに撮影できます。

スローシャッターでも対応できない場合には、ISO感度が自動的に上がります。手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

フラッシュシンクロを選ぶ

P S A M

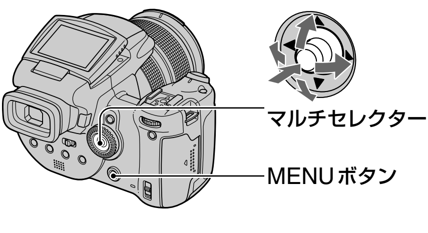
フラッシュを発光するタイミングを選びます。



先幕



後幕



① (セットアップ)画面を表示する(31ページ)。

② マルチセレクターを▲/▼に動かして[ ](カメラ2)、▶/▲/▼に動かして[フラッシュシンクロ]を選ぶ。

③ ▶/▲/▼に動かして希望のモードを選び、中央を押す。

(✓:お買い上げ時の設定)

✓	**先幕**	通常はこちらの設定で使用。シャッターを開いた直後にフラッシュを発光するので、シャッターボタンを押し込んだときの、撮影者の狙ったタイミングにより近い画像が撮影できます。
	後幕(REAR)	動きのある被写体などに使用。シャッターを閉じる直前にフラッシュを発光するので、動きのある被写体の後方に光跡や残像を残すことができます。

[後幕]について

- シャッタースピードが速いときは後幕の効果が得られないことがあります。
- 赤目軽減を選んでいるときに、シャッター速度が遅い場合、赤目軽減の効果が得られないことがあります。

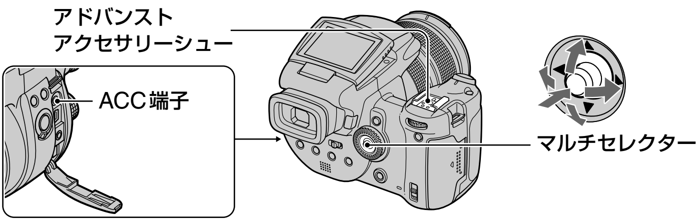
外部フラッシュを使う

P S A M

別売りの外部フラッシュを取り付けることができます。外部フラッシュを使うと光量が増えるため、より鮮明なフラッシュ撮影をすることができます。

外部フラッシュの発光は、フラッシュモードの設定で決まります(49ページ)。A⚡(オート)の場合は本機が自動判断するため、周囲の明るさによっては発光しない場合があります。外部フラッシュを使う場合は、発光するモードを選択してください。

詳しくはお使いになるフラッシュに付属の取扱説明書をご覧ください。



- 外部フラッシュを取り付けていると、重みでレンズ部が安定しません。左手でレンズ部をささえて撮るか、三脚のご使用をおすすめします。
- 外部フラッシュと本機の内蔵フラッシュは同時に発光しません。
- アドバンストアクセサリーシューから2つ以上の外部フラッシュを接続して撮影すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがありますのでご注意ください。
- 外部フラッシュでの撮影時にホワイトバランスが合わない場合は、フラッシュを⚡(強制発光)、または⚡◉(強制発光赤目)、⚡SL(スローシンクロ)、⚡◉SL(スローシンクロ赤目)にして、SET(ワンプッシュセット)で取り込んでから撮影してください(55ページ)。

ソニー製専用フラッシュを使うには

本機のアドバンストアクセサリーシューには下記のソニー製の専用フラッシュを取り付けて使用することができます。

- HVL-F1000
- HVL-F32X（自動発光量調節、AF補助光撮影機能搭載）

① アドバンストアクセサリーシューにお使いになるフラッシュを取り付ける。

② ACC端子にフラッシュのプラグを差し込む。
HVL-F32Xをお使いになる場合は手順②は不要です。

③ フラッシュの電源を入れる。

④ 撮影する。

- （セットアップ）画面の［フラッシュ］が［内蔵］になっていることを確認してください（75ページ）。
- ISOが［800］、［1600］、［3200］のときは、HVL-F32XのAUTO「B」モードは使用できません。
- HVL-F1000/F32Xの「B」モードをご使用のときは、フラッシュレベル（64ページ）が下記のようになります。
＋0.3EV ～＋2.0EVの設定のとき：強
－0.3EV ～－2.0EVの設定のとき：弱
- 本機が正常に動作するのは、モードダイヤルが「」のときか、モードダイヤルが「P」の位置でISOが［オート］になっているときのみです。モードダイヤルが「S」、「A」、「M」、シーンセレクションのときは使用できません。
- 焦点距離35 mm（35 mmカメラ換算）より広角側で使用する場合は、周辺が暗く撮影されることがあるため、ワイドパネルのご使用をおすすめします。

市販のフラッシュを使うには

本機のアドバンストアクセサリーシューには、市販の外部フラッシュを取り付けることもできます。

① アドバンストアクセサリーシューに外部フラッシュを取り付ける。

② （セットアップ）画面を表示する（31ページ）。

③ マルチセレクターを▲/▼に動かして［］（カメラ2）、▶/▲/▼に動かして［フラッシュ］、▶/▲に動かして［外部］を選び、中央を押す。

④ 市販の外部フラッシュの電源を入れる。

⑤ モードダイヤルを「M」または「A」にする。
モードダイヤルが「M」や「A」以外でもフラッシュは発光しますが、「M」または「A」での撮影をおすすめします。

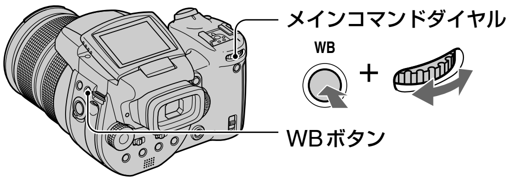
⑥ 撮影する。

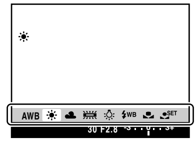
- （セットアップ）画面の［フラッシュ］を［内蔵］のまま撮影すると、内蔵フラッシュが持ち上がることがあります。そのときは、内蔵フラッシュを元に戻して、（セットアップ）画面の［フラッシュ］を［外部］にしてください（75ページ）。
- ［フラッシュ］が［外部］のときは、EXT が表示されます。このとき内蔵フラッシュは発光しません。
- 絞り値は、ご使用のフラッシュのガイドナンバーと被写体との距離から最も適した値を設定してください。
- フラッシュのガイドナンバーは、カメラのISO感度（44ページ）で変わります。ISO感度をご確認ください。
- 他社の特定のカメラ専用とされているフラッシュ（一般にアドバンストアクセサリーシューに複数の接点を持つフラッシュ）、高圧タイプのフラッシュ、およびフラッシュ用の付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがありますのでご注意ください。
- 市販の外部フラッシュによっては、一部の機能が使用できなかったり、操作しにくいことがあります。

色の設定

色合いを調節する－ホワイトバランス　P S A M

通常は自動的に色合いの調節が行われますが、撮影条件に応じた設定にすることができます。





WBボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回し、希望の設定を選ぶ。

（✓：お買い上げ時の設定）

✓	AWB（オート）	ホワイトバランスを自動調節する。（色温度：約3400～7000K（ケルビン））
	（太陽光）	屋外や、夜景/ネオン/花火/日の出/日没前後などに合わせる。（色温度：約5500K（ケルビン））
	（曇天）	曇り空に合わせる。（色温度：約6500K（ケルビン））
	（蛍光灯）	蛍光灯の光に合わせる。（色温度：約4000K（ケルビン））
	（電球）	パーティー会場など、照明条件が変化するときや、スタジオなどのビデオライトに合わせる。（色温度：約3200K（ケルビン））
	WB（フラッシュ）	フラッシュ光に合わせる。（色温度：約6000K（ケルビン））
	（ワンプッシュ）	光源に合わせてホワイトバランスを一定の設定にする。ワンプッシュセットで取り込んだ「白」が基準になる。［オート］や他の設定で実際の色が上手く表現できないときなどに使用する。（色温度：約2000～10000K（ケルビン））
	SET（ワンプッシュセット）	（ワンプッシュ）で基準になる「白」を取り込む。

- ホワイトバランスについて→12ページ
- ちらつきのある蛍光灯下では、［ ］（蛍光灯）を選んでもうまく合わないことがあります。
- ［WB］（フラッシュ）または［ ］（ワンプッシュ）以外のときフラッシュ発光して撮影すると、ホワイトバランスはオートになります。
- フラッシュモードによっては、選択できないものがあります（49ページ）。
- シーンセレクションのモードによっては、選択できないものがあります（29ページ）。

SET（ワンプッシュセット）で基準の「白」を取り込むには

① WBボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、[SET]（ワンプッシュセット）を選ぶ。

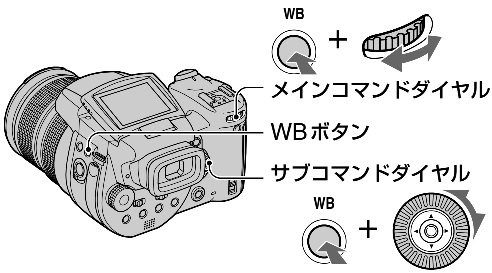
② 被写体を照らす照明条件と同じ所に白い紙などを置き、画面いっぱいに映す。

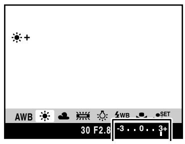
③ マルチセレクターの中央を押す。
画面が一瞬黒くなり、SET表示が速い点滅に変わる。
ホワイトバランスが調節されてカメラに記憶されると、[ ]（ワンプッシュ）になる。

- 表示が遅い点滅をしたときは、ホワイトバランスが未設定または設定できなかった場合を表しています。設定できなかった場合は「オート」で撮影してください。
- SET表示が速い点滅をしている間は、本機を動かさないでください。
- フラッシュモードが（強制発光）、（強制発光赤目）、SL（スローシンクロ）または SL（スローシンクロ赤目）の場合、フラッシュが発光した状態でホワイトバランスが調節されます。

微調整するには

微調整すると、色温度変換用フィルターをかけたような効果で撮影することができます。1ステップで10 mired（ミレッド）相当の補正がかかり、±3ステップの微調整をすることができます（57ページ）。[AWB]（オート）以外のモードで有効です。





① WBボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回し、撮影環境の光の状況に近いモードを選ぶ。

② WBボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回し、微調整の値を選ぶ。
選択したモードのアイコン表示の横に＋または－が表示されます。

- 蛍光灯の種類によっては、[ ]（蛍光灯）を選んでもうまく微調整できないことがあります。
- [WB]（フラッシュ）または[ ]（ワンプッシュ）以外のときにフラッシュを発光して撮影すると、ホワイトバランスがオートになるため、微調整はできません。

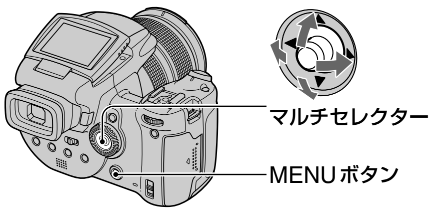
ミレッドについて

ミレッドとは、色温度の逆数を百万倍（10^6）したものです。色温度は温度差が同じでも、色温度が低ければ差が大きく、高ければ小さくなります。ミレッドは、ほぼ同じ尺度で変化の幅を表し、色温度補正フィルターの単位として利用されています。

温度差1000K：ミレッドの差（M：ミレッド）
4000K-3000K：83M
7000K-6000K：23M

画像の色合いを選ぶ－COLOR（色再現） P S A M

色の再現方法を選びます。



① MENUボタンを押す。

② マルチセレクターを◀/▶に動かして［COLOR］（色再現）、▲/▼に動かして希望の設定を選ぶ。

（✓：お買い上げ時の設定）

	Adobe RGB **（Adobe RGB）**	広い色再現域のモードです。自然で忠実な色再現です。 • Adobe RGBで撮影した画像はファイル名が「_DSC□□□□.JPG」となります。（RAWモードのときは拡張子が「.SR2」になります。）
	ビビッド（VIVID）	青い空、夕焼け、新緑、紅葉など印象に残る風景を深く鮮やかな色彩で表現します。
✓	**スタンダード**	さまざまなシーンを豊かな階調と美しい色彩で表現します。

Adobe RGBとは

広い色の表現（色空間）を持ち、印刷などに適しています。

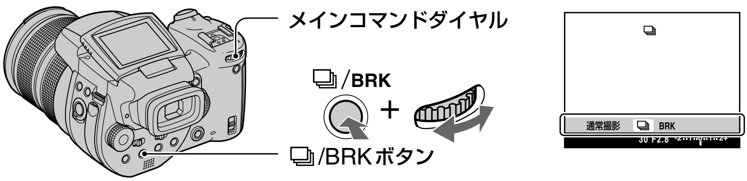
• Adobe RGBで撮影した画像を、Adobe RGB（DCF2.0/Exif2.21）に対応していない液晶モニターやテレビなどで再生すると、低彩度な画像になります。また、対応していないプリンターで出力すると、低彩度なプリント結果になりますので、ご注意ください。

- Adobe RGBで記録するときは、本機の液晶画面やファインダーで見ても彩度が低い画像になります。Adobe RGB(DCF2.0/Exif2.21)に対応しているプリンターをお使いになると忠実な色再現で印刷できます。
- [スタンダード]、[ビビッド]は一般的なパソコンのモニターなどで採用されているsRGB(色空間)で記録されます。

連続撮影する

連写する

シャッターボタンを押し続けている間、最大3枚まで連写します。



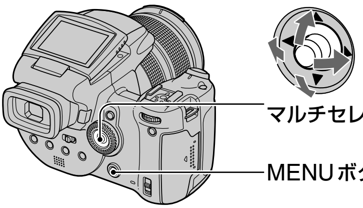
⧉/BRKボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回し、[⧉]を選ぶ。

- 「記録中」という表示が消えると次の画像を撮影できますが、アクセスランプ点灯中にシャッターを押した場合、連写できる枚数は2枚になります。
- フラッシュは (発光禁止)になります。
- 撮影の間隔は0.32秒になります。
- シャッタースピードは以下の通り制限されます。
  ISOが[160] ～ [400]のとき：1/2000 ～ 1/8秒
  ISOが[800] ～ [3200]のとき：1/2000 ～ 1/30秒
- バッテリーの残量が少ない、または記録メディアの容量がいっぱいになると、連写は停止します。

RAWデータで撮る

RAWモードー Mode（撮影モード）

撮影時、CMOSセンサーに取り込まれたデータを圧縮せずにそのまま記録したデータで、拡張子は、「.SR2」です（93ページ）。パソコンにデータを取り込んだあとに、専用ソフトウェアを使い、画質劣化が非常に少ない画像処理でデータを復元し、表示することができます。通常記録される圧縮されたJPEG形式の画像も同時に記録します。



① MENUボタンを押す。

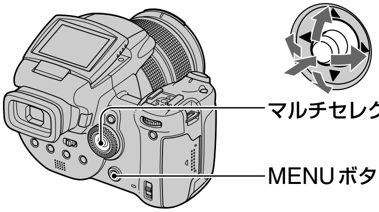
② マルチセレクターを◀/▶に動かして［Mode］（撮影モード）、▲/▼に動かして［RAW］を選ぶ。

- RAWデータをパソコンで復元するにはソフトウェアが必要です。付属のCD-ROMに入っているソフトウェア「Image Data Converter SR Ver.1.0」（Windows/Macintosh）をインストールしてください。RAWデータは特殊なファイルなので一般のアプリケーションでは画像を表示することができません（97、100ページ）。
- JPEG画像は、*別冊「はじめに」手順4*で選ばれている画像サイズで記録されます。RAWデータファイル画像は［10M］で記録されるので記録メディアの容量を多く使用します。
- データの書き込みに通常撮影よりも時間がかかります。
- デジタルズームは使えません。
- 再生時は、同時に記録されたJPEG画像が表示され、回転やトリミングなどのメニュー操作はJPEG画像のみに反映されます。RAWデータは本機では再生・加工できませんのでご注意ください。

構図を決める

グリッドラインを表示する

グリッドラインを画面に表示して撮影すると、グリッドラインを基準にして、水平/垂直のライン合わせが簡単にできます。



① (セットアップ)画面を表示する(31ページ)。

② マルチセレクターを▲/▼に動かして[ ] (カメラ2)、▶/▲/▼に動かして[グリッドライン]を選ぶ。

③ ▶/▲/▼に動かして[入]を選び、中央を押す。

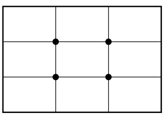
(✓:お買い上げ時の設定)

	入	グリッドラインを表示する。
✓	**切**	グリッドラインを表示しない。

- グリッドラインは記録されません。

撮影のテクニック

構図を決めるときにかんたんで効果的な「3分割法」という方法があります。まず、画面の縦横を3等分するために、画面にグリッドラインを表示します。グリッドラインが交わる4つの点のどこかに撮りたい被写体を配置すると、バランスが良く安定した構図になります。
また2つの被写体を4点のうちの対角線上の2点に配置するのも効果的です。



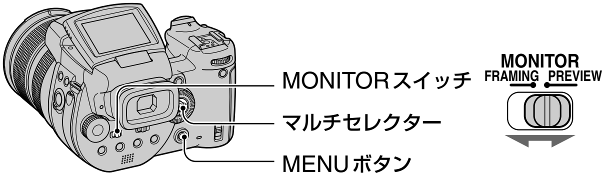


モニターモードの設定

フリッカーを軽減する

P S A M

蛍光灯の光で撮影すると、地域によっては画面にちらつき（フリッカー）が発生します。このちらつきを軽減することができます。



MONITORスイッチを希望のモードに設定する。

FRAMING	フリッカーを軽減する。 また、暗いところでも被写体を確認できるように画面をモニタリング中明るくする機能が自動で働きます（オートブライトモニタリング）。
PREVIEW	フリッカーを軽減しない。 撮影前に被写界深度（37ページ）を確認できます。また、起動時間やシャッターラグも［FRAMING］より短くなります。 • 長時間露光時、およびフラッシュ撮影時は、撮影前に被写界深度を確認できません。

FRAMINGモードでもフリッカーが軽減されないときは

通常はフリッカーの周期を本機が自動的に判断してフリッカーを軽減しますが、フリッカーが出ない蛍光灯下ではうまく検知しません。その場合は、あらかじめ、お使いになる地域の電源周波数（50Hz/60Hz）を設定すると、フリッカーを軽減できます。

① （セットアップ）画面を表示する（31ページ）。

② マルチセレクターを▲/▼に動かして［ ］（カメラ2）、▶/▲/▼に動かして［フリッカー軽減］を選ぶ。

③ ▶/▲/▼に動かして希望のモードを選び、中央を押す。

（✓：お買い上げ時の設定）

	60Hz	電源周波数が60Hzの地域のとき。
	50Hz	電源周波数が50Hzの地域のとき。
✓	オート	カメラが自動で50Hz/60Hzを判断する。

撮影時に使うメニュー

→操作方法は30ページ

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

(画像サイズ)

P S A M

✓	10M（3888×2592）	詳しくは13ページをご覧ください。
	7M（3264×2176）	
	5M（2784×1856）	
	3M（2160×1440）	
	1M（1296×864）	

(画質)

P S A M

静止画の圧縮率を選びます。

✓	ファイン(FINE)	高画質(低圧縮)で記録する。
	スタンダード(STD)	標準画質(高圧縮)で記録する。

• 画質について→12ページ

Mode（撮影モード）

P S A M

	RAW	JPEGファイルと別にRAWデータファイルを記録する。
✓	通常撮影	通常の撮影をする。

• 詳しくは60ページをご覧ください。

BRK（ブラケット設定）

P S A M

自動的に露出を変えて3枚の画像を連続して撮影できます。

	±1.0EV	詳しくは43ページをご覧ください。
✓	±0.7EV	
	±0.3EV	

⚡±（フラッシュレベル）

フラッシュの発光量を調節します。

	⬆ ＋2.0EV	＋側：発光量を増やす。
✓	0EV	本機が自動調節した発光量
	⬇ －2.0EV	－側：発光量を減らす。

- 1/3EV単位でフラッシュレベル値を調節できます。
- 画面には、フラッシュレベル値は表示されず、＋または－でのみ表示されます。
- フラッシュモードの切り換え→49ページ
- 被写体が明るすぎたり暗すぎたりする場合は、効果が出ない場合があります。
- フラッシュモードが ⊛（発光禁止）のときは設定できません。

PFX（P.エフェクト）（ピクチャーエフェクト）

設定してから撮影すると、特殊効果を加えて撮影できます。

	モノトーン（P✦）	画面を白黒にする。
	セピア（P✦）	古い写真のような色合いにする。
✓	**切**	特殊効果を加えない。

- 電源を切ったあとは保持されません。

COLOR（色再現）

色再現のモードを選びます。

	Adobe RGB （Adobe RGB）	57ページをご覧ください。
	ビビッド（VIVID）	
✓	**スタンダード**	

⊛（彩度）

撮影する画像の鮮やかさ（彩度）を変えます。

	＋（⊛）	＋側：鮮やかな色合いにする。
✓	**標準**	
	－（⊛）	－側：落ち着いた色合いにする。

→操作方法は30ページ

◑(コントラスト)　P S A M

撮影する画像の明暗の比(コントラスト)を変えます。

	+(◑)	+側:画像の明暗比が増す。
✓	**標準**	
	−(◑)	−側:画像の明暗比が減る。
	A.G.C.S.(アドバンスト・グラデーション・コントロール・システム)(◑)	逆光で被写体が暗くつぶれて階調がないときや、空と雲など、画面全体が比較的一様な明るさで、明るさの階調が乏しいとき、シーンによって明暗比を増減させ、階調豊かな表現をする。 • フラッシュ発光時はA.G.C.S.機能が働きません。フラッシュが届かない被写体をA.G.C.S.を使用して撮影する場合、フラッシュを(発光禁止)にしてください。 

(シャープネス)　P S A M

撮影する画像の鮮鋭度(シャープネス)を変えます。

	+()	+側:画像のくっきり感が増す。
✓	**標準**	
	−()	−側:落ち着いた画像にする。

(セットアップ)　P S A M

31、71ページをご覧ください。

再生時に使うメニュー

→操作方法は30ページ

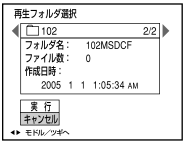
お買い上げ時の設定は✓で示しています。

（フォルダ）

再生したい画像の入っているフォルダを選びます。

	実行	下記の手順をご覧ください。
✓	**キャンセル**	フォルダ選択をやめる。

① マルチセレクターを◀/▶に動かして再生したい画像が入っているフォルダを選ぶ。



② ▲に動かして［実行］を選び、中央を押す。

フォルダについて

本機は撮影した画像を記録メディアの特定のフォルダに記録します（77、79ページ）。このフォルダを変更したり、新規で作成したりできます。

- フォルダを作成するには→［記録フォルダ作成］（77、79ページ）
- 記録先のフォルダを変更するには→［記録フォルダ変更］（78、80ページ）
- 記録メディアに複数のフォルダがあるときは、フォルダ内の最初/最後の画像に下記のマークが表示されます。
  - ：前のフォルダに移動可能
  - ：後ろのフォルダに移動可能
  - ：前/後のフォルダに移動可能

（プロテクト）

画像を誤って消さないように保護（プロテクト）します。

✓	**プロテクト（）**	次ページの手順をご覧ください。
	終了	プロテクト操作を終了する。

→操作方法は30ページ

シングル画面でプロテクトするには

① プロテクトしたい画像を表示する。

② MENUボタンを押し、メニューを表示する。

③ マルチセレクターを◀/▶に動かして[⊶]（プロテクト）を選び、中央を押す。
画像がプロテクトされ、⊶マークが付く。



⊶

④ 他の画像もプロテクトしたいときは、◀/▶に動かして画像を表示し、中央を押す。

インデックス画面でプロテクトするには

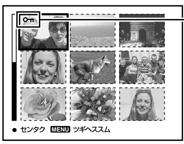
① ⏲/ ⊞（インデックス）ボタンを押して、インデックス画面にする。

② MENUボタンを押し、メニューを表示する。

③ マルチセレクターを◀/▶に動かして[⊶]（プロテクト）を選び、中央を押す。

④ ▲/▼に動かして[選択]を選び、中央を押す。

⑤ ▲/▼/◀/▶に動かしてプロテクトしたい画像を選び、中央を押す。
画像に緑色の⊶マークが付く。



緑の⊶

⑥ 他の画像もプロテクトしたいときは、手順⑤を繰り返す。

⑦ MENUボタンを押す。

⑧ ▶に動かして[実行]を選び、中央を押す。
⊶マークが白色に変わり、プロテクトされる。

• フォルダ内の全画像をプロテクトするには、手順④で[フォルダ内全て]を選んで中央を押し、次に▶に動かして[入]を選んで中央を押す。

プロテクトを解除するには

シングル画面で解除するには

「シングル画面でプロテクトするには」の手順③または④で中央を押す。

インデックス画面で解除するには

① 「インデックス画面でプロテクトするには」の手順⑤で解除したい画像を選ぶ。

② 中央を押して、⊶マークをグレーにする。

③ 同じ操作を解除したいすべての画像について繰り返す。

④ MENUボタンを押して、▶に動かして[実行]を選び、中央を押す。

フォルダ内全画像のプロテクトを解除するには

「インデックス画面でプロテクトするには」の手順④で[フォルダ内全て]を選んで中央を押し、次に▶に動かして[切]を選んで中央を押す。

- フォーマットするとプロテクトした画像も削除され元に戻せません。
- プロテクトには時間がかかる場合があります。

DPOF

プリントしたい画像にプリント予約マーク（🖨✓）を付けます（106ページ）。

🖨（プリント）

102ページをご覧ください。

▷（スライドショー）

撮影した画像を連続再生します（スライドショー）。

間隔設定

✓	3秒	画面切り換えの間隔。
	5秒	
	10秒	
	30秒	
	1分	

再生画像

✓	フォルダ内	選択中のフォルダ内の画像を順番に再生する。
	全て	記録メディア内のすべての画像を順番に再生する。

繰り返し

✓	**入**	繰り返しスライドショーする。
	切	1回スライドショーする。

	スタート	下記の手順をご覧ください。
✓	**キャンセル**	スライドショー操作をやめる。

① マルチセレクターを▲/▼/◀/▶に動かして[間隔設定]、[再生画像]、[繰り返し]を設定する。

② ▼/▶に動かして[スタート]を選び、中央を押す。
スライドショーが始まる。

終了するには、中央を押し、▶に動かして[終了]を選び、中央を押す。

• スライドショー再生中に、◀/▶に動かすと、画像を戻す/送ることができます。
• [間隔設定]の設定時間は画像サイズなどにより変わることがあります。

（リサイズ）

撮影した画像のサイズを変えて（リサイズ）、新しいファイルとして記録します。元の画像はそのまま残ります。

	10M	[画像サイズ]の選択の目安→13ページ
	7M	
	5M	
	3M	
	1M	
✓	**キャンセル**	リサイズを中止する。

① サイズを変更したい画像を表示する。

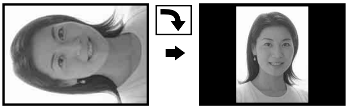
② MENUボタンを押し、メニューを表示する。

③ マルチセレクターを◀/▶に動かして[ ]（リサイズ）を選び、中央を押す。

④ ▲/▼に動かして変更したいサイズを選び、中央を押す。
リサイズした画像が選択中の記録フォルダに一番新しいファイルとして記録される。

• [画像サイズ] →*別冊「はじめに」手順4*
• RAWデータファイルはリサイズできません。
• 小さいサイズから大きいサイズにリサイズすると、画像が劣化します。
• 本機以外のカメラで撮影した3：2以外の画像をリサイズすると、表示画像の上下の端が切れ、3：2の画像になりますのでご注意ください。

（回転）



静止画像を左右に回転します。

	↶ ↷	画像を回転する。下記の手順をご覧ください。
	実行	画像の回転を確定する。下記の手順をご覧ください。
✓	**キャンセル**	[回転]を中止する。

① 回転させたい画像を表示する。

② MENUボタンを押し、メニューを表示する。

③ マルチセレクターを◀/▶に動かして[ ]（回転）を選び、中央を押す。

④ ▲に動かして[↶ ↷]を選び、◀/▶に動かして画像を回転させる。

⑤ ▲/▼に動かして[実行]を選び、中央を押す。

- プロテクトされている画像、RAWデータファイルは回転できません。
- 他機で撮影した画像は本機では回転できないことがあります。
- パソコンで画像を見るとき、ソフトウェアによっては画像の回転情報が反映されない場合があります。

（セットアップ）

31、71ページをご覧ください。

トリミング

再生ズーム（→*別冊「はじめに」手順6*）した画像を新しいファイルとして記録します。

	トリミング	下記の手順をご覧ください。
✓	**戻る**	トリミングを中止する。

① 再生ズーム中にMENUボタンを押し、メニューを表示する。

② マルチセレクターを▶に動かして[トリミング]を選び、中央を押す。

③ ▲/▼に動かして画像サイズを選び、中央を押す。
画像が記録され、拡大前の画像表示に戻る。

- トリミングすると、表示画像の上下の端が切れ、3：2の画像になりますのでご注意ください。
- トリミングした画像は一番新しいファイルとして記録され、元の画像はそのまま残ります。
- トリミングした画像は画質が劣化する場合があります。

カメラ1

→操作方法は31ページ

お買い上げ時の設定は ✓ で示しています。

AFモード

自動ピント合わせ（オートフォーカス）の種類を選びます。

	シングル（S AF）	詳しくは46ページをご覧ください。
✓	モニタリング（M AF）	
	コンティニュアス（C AF）	

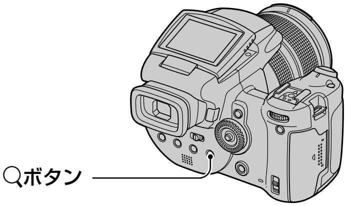
デジタルズーム

デジタル処理により画像を拡大する機能です。スマート/プレシジョンいずれかのデジタルズームを行います。

	スマート（スマートズーム）（SQ）	画像サイズに応じて、画像が劣化しない範囲内にデジタルズーム倍率を制限します。[10M]のときは使用できません。 • スマートズームの最大倍率は、72ページの表をご覧ください。
✓	プレシジョン（プレシジョンデジタルズーム）（PQ）	画像サイズの設定に関わらず、最大10倍までデジタルズームしますが、画像は劣化します。

- スマートズーム/プレシジョンデジタルズームの最大倍率は、光学ズームの倍率を含みます。
- デジタルズーム時はAF測距枠は表示されません。[ ]、[ ] または [ ] が点滅し、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。

デジタルズームにするには

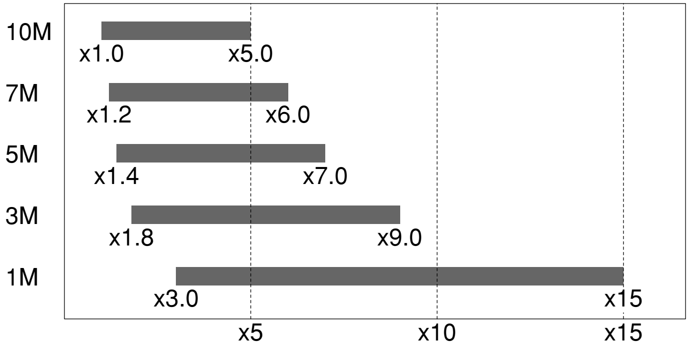


（デジタルズーム）ボタンを押す。解除するには、もう1度 を押す。選択されていた元の光学ズーム倍率に戻ります。

 →操作方法は31ページ

[スマート]について

- スマートズームの倍率は、選択している画像サイズによって下記のようになります。



- スマートズーム時に画面の画像が粗く見える場合がありますが、撮影される画像には影響ありません。

パワーセーブ

撮影時、パワーセーブモードに入るまでの時間を設定します。
パワーセーブモードに入るとPOWERランプが緑から赤に変わります。

	10分	10分でパワーセーブモードになる。
	3分	3分でパワーセーブモードになる。
✔	**1分**	1分でパワーセーブモードになる。
	20秒	20秒でパワーセーブモードになる。
	切	使わない。

パワーセーブモードを解除するには

シャッターボタンを押すと撮影モードに、▶ ボタンを押すと再生モードになります。

- パワーセーブモードのときは、電源が切れていないので、バッテリーが消費されます。
- 静止画を再生しているとき、またはセットアップ画面を表示しているときは、「切」以外に設定しているとパワーセーブモードに入るまでの時間が3分に固定されます。
- FINDER/AUTO/LCDスイッチを「FINDER」または「AUTO」にしているときは、ファインダーに顔を近づけたままにしておくと、本機を操作していない状態として認識されます。この場合設定した時間になるとパワーセーブモードに入ります。
- ACアダプター、リモートコマンダー（別売り）接続時はパワーセーブモードにはなりません。

→操作方法は31ページ

日付/時刻

撮影時に画像に挿入する日付/時刻情報の形式を設定します。設定後、撮影します。

- 撮影時は日時は表示されず、DATE が表示されます。再生時に画面右下に赤色で表示されます。

	日時分	撮影日時分を入れる。
	年月日	撮影年月日を入れる。 • →*別冊「はじめに」手順2*で選んだ表示順に挿入されます。
✓	**切**	日時を入れない。

- 挿入した日時は、後で消去できません。

AFイルミネーター

AFイルミネーターとは、暗所でフォーカスを合わせるための補助光です。シャッターボタンを半押ししてフォーカスがロックされるまでの間、自動的に赤い補助光が出て、フォーカスを合わせやすくします。このとき画面に ON が表示されます。

✓	**オート**	AFイルミネーターを使う。
	切	使わない。

- AFイルミネーターを発光しても、充分な光が被写体に届かない場合（推奨距離：約2.7 m（ズーム：W）まで/約2.3 m（ズーム：T）まで）やコントラストが弱い被写体を撮影する場合、フォーカスは合いません。
- AFイルミネーターの光が画像の中心からずれる場合がありますが、光が被写体に届いていれば、フォーカスは合います。
- マニュアルフォーカス（47ページ）のとき、AFイルミネーターは使えません。
- AF測距枠は表示されません。[ ]、[ ] または [ ] が点滅し、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。
- シーンセレクションが☽（夜景モード）、▲（風景モード）に設定されているときやPUSH AUTO使用時は、AFイルミネーターは発光しません。
- AFイルミネーターは明るい光です。安全には問題ありませんが、至近距離で直接人の目に当たらないようにお使いください。

→操作方法は31ページ

オートレビュー

静止画撮影直後に、記録した画像を約2秒間画面に表示します。

	入	オートレビューを使う。
✓	**切**	使わない。

- シャッターボタンを半押しすると記録画像の表示が消え、すぐに次の撮影ができます。
- 連写/ブラケット時は設定に関係なくレビュー画が表示されます。

カメラ2

→操作方法は31ページ

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

拡大フォーカス表示

マニュアルフォーカス時（47ページ）、プッシュ AF/拡大フォーカス枠部分を中心に画像を2倍にして表示します。

✓	**入**	2倍にする。
	切	2倍にしない。

• プレシジョンズームのときや、画像サイズが[1M]でスマートズームのときは拡大フォーカスされません。

フラッシュシンクロ

フラッシュを発光するタイミングを選びます。

✓	**先幕**	51ページをご覧ください。
	後幕（REAR）	

フラッシュ

外部フラッシュを使うかどうかを選びます。

	外部（EXT⚡）	52ページをご覧ください。
✓	**内蔵**	

ポップアップフラッシュ

フラッシュを自動で発光するか、手動で発光するか選びます。

✓	**オート**	50ページをご覧ください。
	マニュアル	

フリッカー軽減

電源周波数を選びます。

	60Hz	62ページをご覧ください。
	50Hz	
✓	オート	

グリッドライン

グリッドラインを表示するか選びます。

	入	61ページをご覧ください。
✓	切	

メモリースティックツール

→操作方法は31ページ

/CFスイッチが「 」のときのみ表示されます。
お買い上げ時の設定は ✓ で示しています。

フォーマット

“メモリースティック”をフォーマット(初期化)します。市販の“メモリースティック”はフォーマット済みのため、フォーマットの必要はありません。

- フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータが消去され、元に戻せません。

	実行	下記の手順をご覧ください。
✓	**キャンセル**	フォーマットを中止する。

① マルチセレクターを▲に動かして[実行]を選び、中央を押す。
「メモリースティックのデータがすべて消去されます　よろしいですか?」というメッセージが表示される。

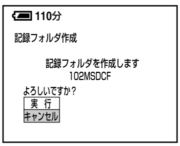
② ▲に動かして[実行]を選び、中央を押す。
フォーマットが実行される。

記録フォルダ作成

“メモリースティック”の中に新しいフォルダを作成します。

	実行	下記の手順をご覧ください。
✓	**キャンセル**	記録フォルダ作成を中止する。

① マルチセレクターを▲に動かして[実行]を選び、中央を押す。
記録フォルダ作成画面が表示される。



② ▲に動かして[実行]を選び、中央を押す。
既存番号+1のフォルダが作成される。次に撮影する画像は新しく作成したフォルダに記録される。

- フォルダについては、66ページで説明しています。
- フォルダを新規作成していない場合は、「101MSDCF」フォルダが記録フォルダとして設定されます。
- フォルダは最高で「999MSDCF」まで作成できます。

- 画像は、違うフォルダを選ぶか、更に新しいフォルダを作成するまでそのフォルダに記録されます。
- 1度作成したフォルダを本機では削除できないため、パソコンなどで削除してください。
- 1つのフォルダに記録できる画像は最大4000枚のため、フォルダ容量を超えると、自動的に新しいフォルダが作成されます。
- 「画像ファイルの保存先とファイル名」（93ページ）もご覧ください。

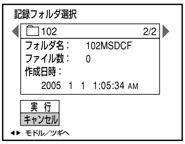
記録フォルダ変更

画像を記録するフォルダを変更します。

	実行	下記の手順をご覧ください。
✓	**キャンセル**	記録フォルダ変更を中止する。

① マルチセレクターを▲に動かして[実行]を選び、中央を押す。

記録フォルダ選択画面が表示される。



② ◀/▶に動かして記録フォルダを選び、▲に動かして[実行]を選び、中央を押す。

- 「100MSDCF」フォルダは記録フォルダとして選べません。
- 記録した画像を別のフォルダには移動できません。

CFカードツール

→操作方法は31ページ

/CFスイッチが「CF」のときのみ表示されます。
お買い上げ時の設定は✔で示しています。

フォーマット

マイクロドライブまたはCFカードをフォーマット（初期化）します。

• フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータが消去され、元に戻せません。

	実行	下記の手順をご覧ください。
✔	**キャンセル**	フォーマットを中止する。

① マルチセレクターを▲に動かして[実行]を選び、中央を押す。
「CFカードのデータがすべて消去されます　よろしいですか？」というメッセージが表示される。

② ▲に動かして[実行]を選び、中央を押す。
フォーマットが実行される。

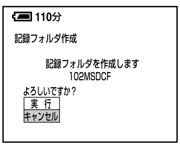
• コンパクトフラッシュスロット対応のメモリースティック デュオ アダプターを使ってのフォーマットはできません。

記録フォルダ作成

マイクロドライブまたはCFカードの中に新しいフォルダを作成します。

	実行	下記の手順をご覧ください。
✔	**キャンセル**	記録フォルダ作成を中止する。

① マルチセレクターを▲に動かして[実行]を選び、中央を押す。
記録フォルダ作成画面が表示される。



② ▲に動かして[実行]を選び、中央を押す。
既存番号+1のフォルダが作成される。次に撮影する画像は新しく作成したフォルダに記録される。

• フォルダについては、66ページで説明しています。

 →操作方法は31ページ

- フォルダを新規作成していない場合は、「101MSDCF」フォルダが記録フォルダとして設定されます。
- フォルダは最高で「999MSDCF」まで作成できます。
- 画像は、違うフォルダを選ぶか、更に新しいフォルダを作成するまでそのフォルダに記録されます。
- 1度作成したフォルダを本機では削除できないため、パソコンなどで削除してください。
- 1つのフォルダに記録できる画像は最大4000枚のため、フォルダ容量を超えると、自動的に新しいフォルダが作成されます。
- 「画像ファイルの保存先とファイル名」（93ページ）もご覧ください。

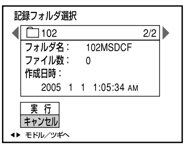
記録フォルダ変更

画像を記録するフォルダを変更します。

	実行	下記の手順をご覧ください。
✓	**キャンセル**	記録フォルダ変更を中止する。

① マルチセレクターを▲に動かして［実行］を選び、中央を押す。

記録フォルダ選択画面が表示される。



② ◀/▶に動かして記録フォルダを選び、▲に動かして［実行］を選び、中央を押す。

- 「100MSDCF」フォルダは記録フォルダとして選べません。
- 記録した画像を別のフォルダには移動できません。

設定1

→操作方法は31ページ

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

LCDバックライト

LCD（画面）バックライトの明るさを設定します（バッテリー使用時のみ）。

	明	明るくする。
✓	**標準**	
	暗	暗くする。

- ［明］に設定すると、バッテリーの消耗は早くなります。

EVFバックライト

ファインダーのバックライトの明るさを設定します。

	明	明るくする。
✓	**標準**	
	暗	暗くする。

- ［明］に設定すると、バッテリーの消耗は早くなります。

操作音

本機を操作したときに鳴るブザーを設定します。

	シャッター	シャッターボタンを押したときのみ、シャッター音が鳴る。
✓	**入**	マルチセレクター /シャッターボタンを押したときなどに、ブザー /シャッター音が鳴る。
	切	音は鳴らない。

ゼブラ

ゼブラパターンを表示するか選びます。

	入	41ページをご覧ください。
✓	**切**	

設定2

→操作方法は31ページ

お買い上げ時の設定は ✓ で示しています。

ファイルナンバー

撮影画像のファイルナンバーの付けかたを設定します。

✓	**連番**	記録フォルダを変更したり、記録メディアを取り換えても、ファイル番号を連続して付ける。（取り換えた記録メディア内に最新ファイルより大きな番号のファイルがある場合は、既存の最大番号+1のファイル番号を付ける。）
	リセット	フォルダごとにファイル番号を0001から付ける。（記録フォルダ内にファイルがある場合は、既存最大番号＋1のファイル番号を付ける。）

USB接続

本機とパソコンまたはPictBridge対応プリンターをUSBケーブルで接続するときのモードを設定します。

	PictBridge	本機とPictBridge対応プリンターを接続する（102ページ）。
	PTP	PTP（Picture Transfer Protocol）接続すると、コピーウィザードが自動的に起動し、本機に設定されている記録フォルダ内の画像をパソコンにコピーする。（Windows XP、Mac OS Xに対応）
	Mass Storage	本機とパソコン、その他USB機器をMass Storage接続する（89ページ）。
✓	**オート**	本機がパソコン、またはPictBridge対応プリンターを自動認識して接続する（89、102ページ）。 • [オート]で本機とPictBridge対応プリンターを接続できない場合は、[PictBridge]に設定しなおしてください。 • [オート]で本機とパソコン、その他USB機器を接続できない場合は、[Mass Storage]に設定しなおしてください。

→操作方法は31ページ

ビデオ信号出力

接続するビデオ機器のカラーテレビ方式に合わせて設定します。

✓	NTSC	ビデオ信号出力をNTSCモードに設定する（日本、米国など）。
	PAL	ビデオ信号出力をPALモードに設定する（欧州など）。

時計設定

時刻を再設定します。

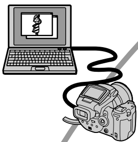
	実行	マルチセレクターを▲に動かして[実行]を選び、中央を押す。その後、時計合わせの手順（→*別冊「はじめに」手順2*）を行う。
✓	**キャンセル**	時計設定を中止する。

Windowsパソコンでできること

Macintoshについては、「Macintoshをお使いのときは」をご覧ください
（98ページ）。



まずはパソコンに画像を取り込もう！（87ページ）



画像をパソコンで見る

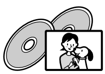
必要な準備

USBドライバをインストールする。
• WindowsXPでは不要です。

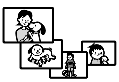
PicturePackageで活用の幅を広げよう！（95ページ）



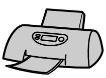
パソコン内の画像を見る



CD-Rに画像を保存する



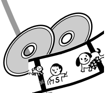
Myビデオ&Myスライドショーを自動作成する



プリントする

PicturePackageをインストールする。（95ページ）

ImageMixerでビデオCDづくりに挑戦！（95ページ）



ビデオCDを作成する

ImageMixer VCD2は、PicturePackageをインストールすると、同時に自動でインストールされます。

パソコンの推奨環境

本機とつなぐパソコンは、下記の推奨環境が必要です。

画像を取り込むときの推奨環境

OS（工場出荷時にインストールされていること）：Microsoft Windows 98/98SE/2000 Professional/Millennium Edition/XP Home Edition/XP Professional

- 上記のOSでもアップグレードされた場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。

CPU：MMX Pentium 200 MHz以上

USB端子：標準装備

ディスプレイ：800 × 600 ドット以上、High Color（16 bitカラー、65000色）以上

PicturePackage/ImageMixer VCD2使用時の推奨環境

必要なソフトウェア：Macromedia Flash Player 6.0以降、Windows Media Player 7.0以降、DirectX 9.0b以降。

サウンドカード：16 bitステレオサウンドカードおよびスピーカー

メモリ：64 MB以上（128 MB以上を推奨）

ハードディスク：インストール時に必要な容量：約500 MB

ディスプレイ：4 MBのVRAMを搭載したビデオカード（Direct Drawドライバに対応）

- Myビデオ&Myスライドショーを自動作成する場合は（95ページ）、Pentium III 500 MHz以上のCPUが必要です。
- ImageMixer VCD2を使う場合は、Pentium III 800 MHz以上を推奨します。
- 本ソフトウェアはDirectXテクノロジーに対応しているため、DirectXのインストールが必要になることがあります。
- CD-Rに書き込みを行う場合には、記録デバイスを動作する環境が別途必要です。

Image Data Converter SR Ver.1.0使用時の推奨環境

OS（工場出荷時にインストールされていること）：Microsoft Windows 2000 Professional/XP Home Edition/XP Professional

CPU：MMX Pentium III 1 GHz以上推奨

メモリ：256 MB以上（512 MB以上を推奨）

仮想メモリー：700 MB以上

ディスプレイ：1024 × 768 ドット以上、High Color(16 bitカラー、65000色）以上

パソコン接続についてのご注意

- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- USBハブ経由でご使用の場合は、動作保証いたしません。
- Hi-Speed USB（USB2.0準拠）のため、対応のUSBインターフェースに接続すると、高速な転送（high-speed転送）が行えます。

- パソコンと接続するときの本機のUSBモードには[オート](お買い上げ時の設定)、[Mass Storage]、[PTP]の3種類があります。ここでは[オート]および[Mass Storage]での使いかたを説明します。[PTP]については、82ページをご覧ください。
- パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

デジタルイメージングカスタマーサポートのホームページでは、パソコンとの接続方法や最新サポート情報をご覧いただけます。
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

画像をパソコンに取り込む

ここでは、Windowsパソコンでの手順を説明します。
本機の画像をパソコンに取り込むには、下記の方法があります。

記録メディアを直接パソコンに挿入する場合：
本機から記録メディアを取りはずして、パソコンに挿入して、画像データをコピーする。

記録メディアを入れた本機でUSB接続する場合：
87〜92ページ記載の操作1〜5で、画像をパソコンにコピーできます。

- 画像の例は"メモリースティック"の画像をパソコンにコピーするときのものです。

パソコンとの接続方法や最新サポート情報は、デジタルイメージングカスタマーサポートのホームページをご覧ください。

http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

操作1：USBドライバをインストールする

98 **98SE** **2000** **Me**

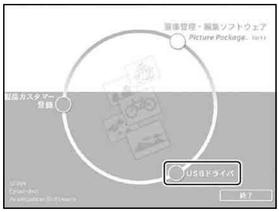
- ドライバとは、接続機器を正しく動かすためのソフトウェアです。
- Windows XPのときは、操作1は不要です。
- すでにパソコンにPicturePackageがインストールされている場合は、操作1は不要です。

ご注意：この時点では、本機をパソコンにつながないでください。

1 使用中のソフトウェアをすべて終了させる。

- Windows 2000は、Administrator(管理者権限)でログオンする。

2 CD-ROM「サイバーショットアプリケーションソフトウェア」をパソコンに入れ、インストール画面が表示されたら、「USB ドライバ」をクリック。



「Sony USB Driver用のInstallShieldウィザードへようこそ」画面が表示される。

- インストール画面が表示されないときは、(マイコンピュータ)→ (PICTURE PACKAGE)の順にダブルクリック。

パソコンで楽しむ

3 [次へ]をクリック。



USBドライバのインストールが始まる。インストールが終了すると、「InstallShieldウィザードの完了」画面が表示される。

4 [はい、今すぐコンピュータを再起動します。]の ○ をクリックして ⊙にし、[完了]をクリック。



パソコンが再起動して、本機とパソコンがUSB接続できるようになる。

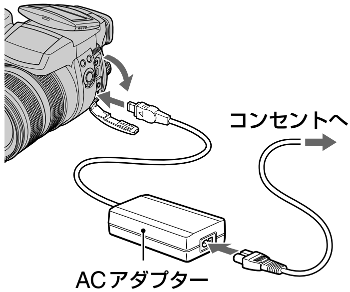
インストールが終了したら、パソコンからCD-ROMを取り出す。

操作2：本機とパソコンを準備する

1 画像を記録した記録メディアを本機に入れる。

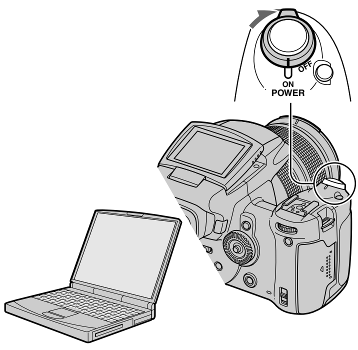
- 記録メディアの選択は、[MS]/CFカードスイッチで行ってください。(→*別冊「はじめに」手順3*)

2 ACアダプターで本機とコンセントをつなぐ。

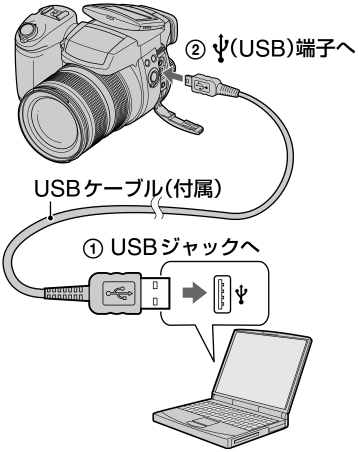


- バッテリー電源では、バッテリー切れのため、データを転送できなかったり、データを破損する恐れがあります。

3 本機とパソコンの電源を入れる。

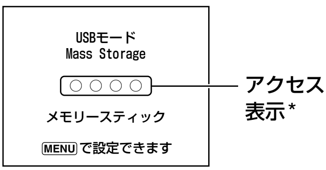


操作3：本機とパソコンをつなぐ



• Windows XPの場合は、パソコンの画面に自動再生ウィザードが表示されます。

本機の画面に「USBモード Mass Storage」と表示される。



初回接続時のみ、パソコンが本機を認識するための作業を自動的に行います。作業が終わるまでお待ちください。

* 通信中はアクセス表示が赤色になります。白色になるまで、パソコンの操作をしないでください。

• USB接続中に"メモリースティック"/CFカードカバーを開けると接続が遮断されます。絶対に開けないでください。

• 画面に「USBモード Mass Storage」と表示されないときは、本機の[USB接続]を[Mass Storage]に設定してください(82ページ)。

操作4-A：画像をパソコンに取り込む

XP

• Windows 98/98SE/2000/Me使用時：→「操作4-B：画像をパソコンに取り込む」(90ページ)
• Windows XP使用時で自動再生ウィザードが起動しない時：→「操作4-B：画像をパソコンに取り込む」(90ページ)

ここでは、パソコンの「マイドキュメント」に画像を取り込む例を説明します。

1 「操作3」で接続完了後、パソコンで自動再生ウィザードが起動するので、[コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする。Microsoftスキャナとカメラウィザード使用]→[OK]の順にクリック。



「スキャナとカメラウィザードの開始」画面が表示される。

2 [次へ]をクリック。

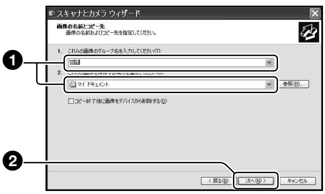
本機の記録メディアに記録されている画像が表示される。

3 パソコンにコピーしない画像の ☑ をクリックして ☐ にし、[次へ]をクリック。



「画像の名前とコピー先」画面が表示される。

4 画像の名前とコピー先を指定し、[次へ]をクリック。



画像のコピーを開始します。画像のコピーが終了すると、「そのほかのオプション」画面が表示される。

- ここでは、画像のコピー先を「マイドキュメント」にしています。

5 [作業を終了する]の ○ をクリックして ⊙ にし、[次へ]をクリック。



「スキャナとカメラウィザードの完了」画面が表示される。

6 [完了]をクリック。

ウィザード画面が閉じる。

- 続けて画像をコピーしたい場合は、92ページの手順で、USBケーブルを1度抜いて、「操作3:本機とパソコンをつなぐ」から行う。

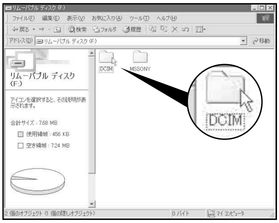
操作4-B:画像をパソコンに取り込む

98 | 98SE | 2000 | Me

- Windows XP使用時:→「操作4-A:画像をパソコンに取り込む」(89ページ)

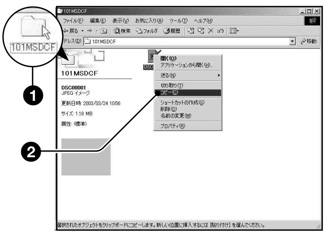
ここでは、パソコンの「マイドキュメント」に画像を取り込む例を説明します。

1 [マイコンピューター]→[リムーバブルディスク]→[DCIM]の順にダブルクリック。



• リムーバブルディスクが表示されないときは、116ページをご覧ください。

2 取り込みたい画像の入っているフォルダをダブルクリック。次に、取り込みたい画像ファイルを右クリックしてメニューを表示し、[コピー]をクリック。



3 [マイドキュメント]フォルダをダブルクリックして開く。次に、右クリックでメニューを表示し、[貼り付け]を選ぶ。



「マイドキュメント」フォルダに画像がコピーされる。

• コピー先に同じファイル名の画像があるときは、元の画像を上書きしてもよいかを確認するメッセージが表示されます。
上書きすると、元のファイルデータは消えます。上書きしない場合は、ファイル名を希望の名称に変更してからコピーします。ただし、ファイル名を変更する(94ページ)と本機で再生できなくなる場合があります。

操作5：パソコンで画像を見る

「マイドキュメント」に保存された画像を見ます。

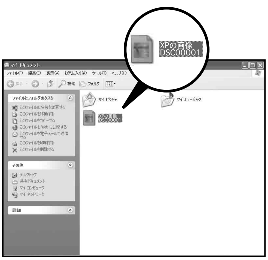
1 ［スタート］→［マイドキュメント］をクリック。



「マイドキュメント」フォルダの内容が表示される。

- Windows XP以外の場合は、デスクトップ画面上の［マイドキュメント］をダブルクリックする。

2 見たい画像ファイルをダブルクリック。



画像が表示される。

- Adobe RGBで撮影した画像は、モニターによって、印刷したときと色合いが異なる場合がありますのでご注意ください。

パソコンとの接続を切断するには

以下の操作を行いたいときは、ここで説明する手順をあらかじめ行ってください。

- USBケーブルを抜く
- 記録メディアを取り出す
- 本機の電源を切る
- /CFスイッチを切り換える

■Windows 2000/Me/XPの場合

① タスクトレイの をダブルクリック。



ここをダブルクリック

②（Sony DSC）→［停止］をクリック。

③ 取りはずすドライブを確認して、［OK］をクリック。

④ ［OK］をクリック。

パソコンの接続が切断されました。

- Windows XPをお使いの方は、手順④は不要です。

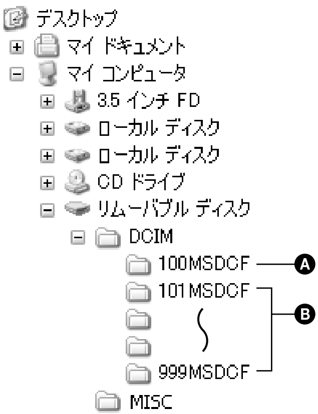
■Windows 98/98SEの場合

アクセス表示（89ページ）が白色になっていることを確認する。白色になっていれば、パソコンとの接続が切断されています。

画像ファイルの保存先とファイル名

本機で撮影した画像ファイルは、記録メディア内のフォルダにまとめられています。

Windows XPの例（"メモリースティック"の場合）



Ⓐ フォルダ作成機能のないカメラで撮影した画像ファイルのフォルダ。

Ⓑ 本機で撮影した画像ファイルのフォルダ。新しくフォルダ作成していない場合は、「101MSDCF」のみです。

- マイクロドライブまたはCFカードをお使いの場合でも、パソコン環境によっては「Sony MemoryStick」と表示される場合があります。
- 「100MSDCF」には、本機で画像を記録できません。再生のみ可能です。
- 「MISC」フォルダは、本機では記録も再生もできません。
- 画像ファイル名は、下記のようになります。□□□□は0001 ～ 9999の半角数字、RAWデータファイルとそのJPEG画像ファイル名の数字部分は同じです。
  – 静止画ファイル：DSC0□□□□.JPG
  – Adobe RGBデータファイル：_DSC□□□□.JPG
  – RAWデータファイル（Adobe RGB以外）：DSC0□□□□.SR2
  – RAWデータファイル（Adobe RGB）：_DSC□□□□.SR2
- フォルダについては、66、77、79ページをご覧ください。

パソコン内の画像を本機で見る

ここでは、Windowsパソコンでの手順を説明します。
パソコンにコピー後、記録メディアから消去した画像をもう1度本機で見るには、パソコンから記録メディアに画像をコピーしてから本機で再生します。

- 本機設定のファイル名を変更していない場合、手順1は必要ありません。
- 画像サイズによっては再生できない画像があります。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生を保証しません。
- フォルダがない場合は、まず本機でフォルダを作成してから（77、79ページ）画像ファイルのコピーを行ってください。

1 画像ファイルを右クリックし、[名前の変更]をクリックする。ファイル名を「DSC0□□□□」に変更する。

□□□□には、0001から9999までの半角数字を入れる。

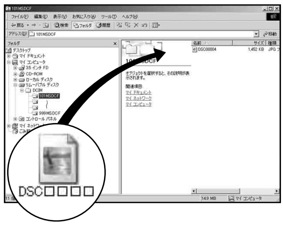


- 上書きの警告が出た場合は、別の数字を入れなおしてください。
- パソコンによっては、静止画の拡張子「JPG」が表示されます。拡張子は変更しないでください。

2 下記の手順で、ファイルを記録メディア内のフォルダにコピーする。

① 画像を右クリック→[コピー]をクリック。
② [マイコンピュータ]内の[リムーバブルディスク]または[SonyMemoryStick]をダブルクリック。
③ [DCIM]フォルダ内の[□□□MSDCF]フォルダを右クリックし、[貼り付け]をクリック。

- □□□には、100～999までの半角数字が入る。



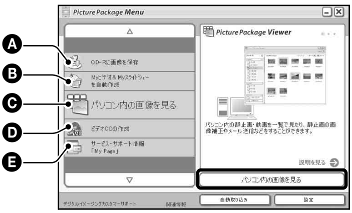
付属のソフトウェアで楽しむ

ここでは、Windowsパソコンの手順を説明します。

付属ソフトウェアのご紹介

付属のCD-ROM「サイバーショットアプリケーションソフトウェア」には、PicturePackage、ImageMixer VCD2の２つのソフトウェアが収録されています。

PicturePackage



[できること]

A CD-Rに画像を保存
B Myビデオ&Myスライドショーを自動作成
C パソコン内の画像を見る
D ビデオCDの作成
ImageMixer VCD2の画面が表示されます。
E サービス・サポート情報「My Page」

[各機能のはじめかた]

A～Eのいずれかをクリックで選び、次に画面右下のボタンをクリックする。

ソフトウェアをインストールする

下記の手順で、PicturePackage/ImageMixer VCD2ソフトウェアをインストールします。

- Windows XP以外で、USBドライバをインストール（87ページ）していない場合は、インストール前に本機をパソコンに接続しないでください。
- Windows 2000の場合はAdministrator（管理者権限）、Windows XPをお使いの場合はコンピュータの管理者権限でログオンしてください。
- “PicturePackage”のインストールを行うと、USBドライバのインストールも同時に行えます。
- Windows 98/ Windows 98SEで、DVgate Ver.2.3より以前のバージョンがインストールされているバイオに、DirectX 9以降のDirectXをインストールすると、DVgateやDVgate motionを正常に使用できません。PicturePackageをインストールすると、同時にDirectX 9もインストールされるためです。
今後もDVgateを使用する場合は、PicturePackageをインストールしないようにご注意ください。

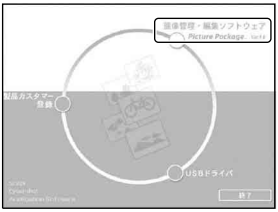
詳しくは下記URLをご覧ください。
http:/ /www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

1 パソコンの電源を入れた状態で、CD-ROM（付属）をCD-ROMドライブに入れる。

インストール画面が表示される。

- インストール画面が表示されないときは、（マイコンピュータ）→（PICTURE PACKAGE）の順にダブルクリック。

2 [PicturePackage]をクリックする。



言語の選択画面が表示される。

3 [日本語]を選び、[次へ]を２回クリックする。

使用許諾画面が表示される。
内容をよく読み、「使用許諾契約の全条項に同意します」にチェックを入れ、[次へ]をクリック。

4 以降、画面の指示に従ってインストールを進める。

- 「ImageMixer VCD2」、「DirectX」（インストールされていない場合のみ）も連続してインストールされます。
- パソコンの再起動を求める画面が表示されたら、画面の指示に従って再起動してください。

5 インストール後、デスクトップ上に「PicturePackage Menu」とPicturePackage保存先フォルダのショートカットが表示されたら、パソコンからCD-ROMを取り出す。

ソフトウェアを起動するには

デスクトップ上の[PicturePackage Menu]のアイコンをダブルクリック。

ソフトウェアの使いかたを調べるには

各画面右上の[？]をクリックして表示されるヘルプを参照する。

PicturePackage/ ImageMixer VCD2に関するお問い合わせ・サポートは、ピクセラユーザーサポートセンターに委託しています。

ピクセラユーザーサポートセンター
電話：06-6633-3900
受付時間：月～日　午前9時～午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く。）
URL：http://www.ppackage.com/

Image Data Converter SR Ver.1.0をインストールする

付属のCD-ROMに入っているソフトウェア「Image Data Converter SR Ver.1.0」を使うと、RAWモードで撮影した画像をトーンカーブやシャープネスなど多彩な補正機能で編集できます。また、汎用ファイルフォーマット形式で保存することができます。

1 パソコンの電源を入れた状態で、CD-ROM（Image Data Converter SR）をCD-ROMドライブに入れる。

設定言語の選択画面が表示される。

2 [日本語]を選び、[次へ]をクリックする。

「Image Data Converter SRセットアップへようこそ」画面が表示される。

3 [次へ]をクリックする。

「使用許諾契約」画面が表示される。
内容をよく読み、[使用許諾契約の全条項に同意します]にチェックを入れ、[次へ]をクリック。

4 以降、画面の指示に従ってインストールを進め、完了する。

- パソコンの再起動を求める画面が表示されたら、画面の指示に従って再起動してください。

- Image Data Converter SRでは、どの色再現モードに対しても色空間を変更することができます。そのため「Adobe RGB」でなく「リアル」という表記を使用しています。

色再現モードと色空間の関係は以下の通りです。

- 本機で実現している組み合わせ

	スタンダード	リアル	ビビッド
sRGB	○		○
Adobe RGB		○	

- Image Data Converter SRで実現可能な組み合わせ

	スタンダード	リアル	ビビッド
sRGB	○	○	○
Adobe RGB	○	○	○

Image Data Converter SR Ver.1.0 に関するお問い合わせは
こちらのホームページから
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/
サイバーショットオフィシャルWEBサイト
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/

テクニカルインフォメーションセンター
電話：0564-62-4979
受付時間：
月～金曜日：午前9時～午後8時
土、日曜日、祝日：午前9時～午後5時

Macintoshをお使いのときは

Macintoshに画像を取り込んで見たり、「ImageMixer VCD2」(付属)を使ってビデオCDを作成できます。

パソコンの推奨環境

画像を取り込む時の推奨環境

OS(工場出荷時にインストールされていること): Mac OS 9.1/9.2、Mac OS X(v10.0以降)

USB端子: 標準装備

ImageMixer VCD2使用時の推奨環境

OS(工場出荷時にインストールされていること):Mac OS X(v10.1.5以降)

CPU: iMac、eMac、iBook、PowerBook、Power Mac G3/G4/G5シリーズ、Mac mini

メモリ: 128 MB以上(256 MB以上を推奨)

ハードディスク: インストール時に必要な容量:約250 MB

ディスプレイ: 1024×768ドット以上、32000色以上

- 工場出荷時にQuickTime 4以降がインストールされていることが必要です(QuickTime 5以上を推奨)。

Image Data Converter SR Ver.1.0使用時の推奨環境

OS(工場出荷時にインストールされていること): Mac OS X v10.3-10.4

CPU: iMac、eMac、iBook、PowerBook、Power Mac G4/G5シリーズ、Mac mini

メモリ: 256 MB以上(512 MB以上を推奨)

ディスプレイ: 1024×768ドット以上、32000色以上

パソコン接続についてのご注意

- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- USBハブ経由でご使用の場合は、動作保証いたしません。
- Hi-Speed USB(USB2.0準拠)のため、対応のUSBインターフェースに接続すると、高速な転送(high-speed転送)が行えます。
- パソコンと接続するときの本機のUSBモードには[オート](お買い上げ時の設定)、[Mass Storage]、[PTP]の3種類があります。ここでは[オート]および[Mass Storage]での使いかたを説明します。[PTP]については、82ページをご覧ください。
- パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

デジタルイメージングカスタマーサポートのホームページでは、パソコンとの接続方法や最新サポート情報をご覧いただけます。
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

画像を取り込んで見る

1 本機とMacintoshを準備する。

「操作2:本機とパソコンを準備する」(88ページ)と同じ準備をします。

2 USBケーブルで接続する。

「操作3:本機とパソコンをつなぐ」(89ページ)と同じ操作で接続します。

3 画像ファイルをMacintoshにコピーする。

① [デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコン] → [DCIM] → [取り込みたい画像の入ったフォルダ]の順にダブルクリック。

② 画像ファイルをハードディスクアイコンにドラッグ＆ドロップ。
ハードディスクに画像ファイルがコピーされる。

- 画像ファイルの保存先とファイル名については、93ページをご覧ください。

4 Macintoshで画像を見る

[ハードディスクアイコン] → [画像ファイル]の順にダブルクリックすると画像が開く。

パソコンとの接続を切断するには

以下の操作を行いたいときは、ここで説明する手順をあらかじめ行ってください。

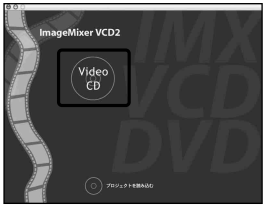
- USBケーブルを抜く
- 記録メディアを取り出す
- 本機の電源を切る
- /CFスイッチを切り換える。

記録メディアまたはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ＆ドロップする。

パソコンとの接続が切断されました。

- Mac OS X v.10.0の場合は、Macintoshの電源を切ってから作業を行う。

「ImageMixer VCD2」でビデオCDをつくる



- Macintosh版のImageMixer VCD2ではディスクイメージ(ビデオCD形式でCD-Rに書き込みを行うためのデータ)作成までを行います。実際にビデオCD形式でCD-Rに保存する場合は、Roxio社のToast (別売り)が必要になります。

ImageMixer VCD2をインストールするには

- インストール前に使用中のソフトウェアをすべて終了させてください。
- ディスプレイの設定をあらかじめ1024×768ドット以上、32000色モード以上にしてください。

① Macintoshに電源が入った状態で、CD-ROM (付属)をディスクドライブに入れる。

② CD-ROMアイコンをダブルクリック。

③ 「MAC」フォルダの中の「IMXINST.SIT」を任意のフォルダにコピー。

④ コピー先のフォルダの中の[IMXINST.SIT]をダブルクリック。

⑤ コピー先のフォルダの中にあるImageMixerフォルダ内の[ImageMixerVCD2_Install]をダブルクリック。

⑥ ユーザーの承認画面が表示されたら、お好みの名前とパスワードを入力する。ソフトウェアのインストールが始まる。

「ImageMixer VCD2」を起動するには

① ［アプリケーション］の中から［ImageMixer］フォルダを開く。

② ［ImageMixer VCD2］をダブルクリック。

「ImageMixer VCD2」の使いかたを調べるには

画面右上の［？］をクリックして表示されるヘルプを参照する。

> ImageMixer VCD2に関するお問い合わせ・サポートは、ピクセラユーザーサポートセンターに委託しています。
>
> **ピクセラユーザーサポートセンター**
> 電話：06-6633-3900
> 受付時間：月～日　午前9時～午後5時
> （ただし、年末、年始、祝日を除く。）
> URL：http://www.ppackage.com/

Image Data Converter SR Ver.1.0をインストールする

RAWモードで撮影した画像をトーンカーブやシャープネスなど多彩な補正機能で編集できます。また、汎用ファイルフォーマット形式で保存することができます。

① Macintoshの電源が入った状態で、CD-ROM（Image Data Converter SR）を、ディスクドライブに入れる。

② CD-ROMアイコンをダブルクリック。

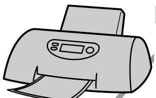
③ 「MAC」フォルダの中の「IDCSR_INST.pkg」を任意のフォルダにコピー。

④ コピー先のフォルダの中の［IDCSR_INST.pkg］をダブルクリック。
「ようこそ　Image Data Converter SRのインストールへ」画面が表示される。
以降、画面の指示に従ってインストールを進め、完了する。

• Image Data Converter SR Ver.1.0の色再現モードについてのご注意とサポート情報は97ページをご覧ください。

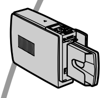
静止画をプリントするには

ダイレクトプリントする（PictBridge対応プリンター使用）（102ページ）



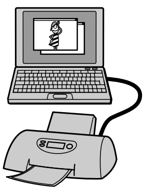
PictBridge対応プリンターに本機を直接接続してプリントします。

ダイレクトプリントする（"メモリースティック"/マイクロドライブ/CFカード対応プリンター使用）



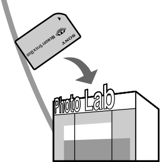
"メモリースティック"/マイクロドライブ/CFカード対応プリンターでプリントします。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

パソコンを使ってプリントする



付属のCD-ROM収録のソフトウェア「PicturePackage」を使って画像をパソコンに取り込んでから、プリントします。

お店でプリントする（106ページ）



プリントサービス店に、画像を撮影した記録メディアを持参します。プリントしたい画像にあらかじめ（プリント予約）マークを付けておくこともできます。

ダイレクトプリントする（PictBridge対応プリンター使用）

PictBridge対応プリンターなら、本機で撮影した画像をパソコンなしでプリントできます。

PictBridge

• 「PictBridge」は、「ピクトブリッジ」と読みます。カメラ映像機器工業会（CIPA）で制定された統一規格のことです。

シングルプリント

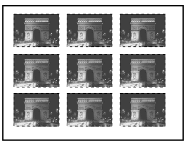
1枚のプリント用紙に1枚の画像をプリントします。



インデックスプリント

1枚のプリント用紙に複数の画像を縮小プリントします。1枚の画像を繰り返しプリントしたり（①）、選択した画像をインデックスプリント（②）できます。

①



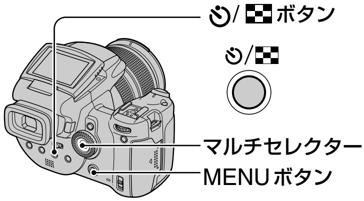
②



• インデックスプリントはプリンターによっては対応していない場合があります。
• プリンターによって、1枚のインデックスプリントでプリントされる画像枚数は異なります。
• RAWデータファイルはプリントできません。
• 本機の画面で PictBridgeマーク が約5秒間点滅したら（プリンターからのエラー通知）、接続しているプリンターを確認してください。

操作1：本機を準備する

本機とプリンターをUSB接続するために、本機を設定します。[USB接続]の[オート]モードで認識されるプリンターに接続する場合、操作1の1～4は不要です。



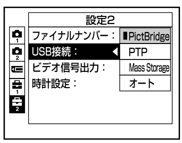
• プリントの途中で電源が切れないように、ACアダプターのご使用をおすすめします。

1 MENUボタンを押し、メニューを表示する。

2 マルチセレクターを▶に動かして[ ]（セットアップ）を選ぶ。

3 マルチセレクターを▼に動かして[ ]（設定2）を選び、▲/▼/▶に動かして[USB接続]を選ぶ。

4 ▶/▲に動かして[PictBridge]を選び、中央を押す。



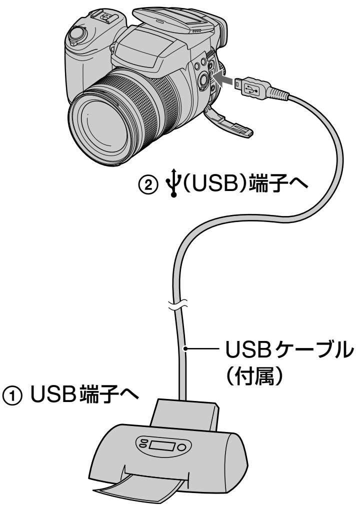
USB接続が設定される。

5 画像を記録した記録メディアを本機に入れる。

- 記録メディアの選択は /CFスイッチで行ってください。

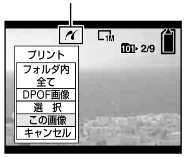
操作2：本機とプリンターをつなぐ

付属のUSBケーブルで本機とプリンターを接続します。



本機とプリンターの電源を入れる。

接続が完了すると、画面に
マークが表示される。



本機が再生モードになり、画像とプリントメニューが画面に表示される。

操作3：プリントする

▶ボタンを押さなくても、操作2が終わった時点で、画面にプリントメニューが表示されています。

1 マルチセレクターを▲/▼に動かして希望のプリントの種類を選び、中央を押す。

［フォルダ内全て］
フォルダ内すべての画像をプリントする。

［DPOF画像］
表示されている画像と関係なく、（プリント予約）マーク（106ページ）が付いているすべての画像をプリントする。

[選択]

画像を順に選ぶ。選んだすべての画像をプリントする。

① ◀/▶に動かしてプリントしたい画像を選び、中央を押す。
選んだ画像に✔マークが付く。
- 他の画像も選ぶには、この手順を繰り返す。

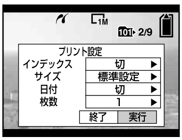
② ▼に動かして[プリント]を選び、中央を押す。

[この画像]

表示されている画像をプリントする。

- この項目で[この画像]を選び、次の手順2の[インデックス]を[入]にすると、1枚の画像を繰り返しインデックスプリントします。

2 ▲/▼/◀/▶に動かしてプリント設定する。



[インデックス]

インデックスプリントするときは[入]を選ぶ。

[サイズ]

用紙サイズを選ぶ。

[日付]

日付を挿入するときは[年月日]または[日時分]を選ぶ。

- [日付]で[年月日]を選んだ場合、→*別冊「はじめに」手順2*で選んだ表示順の年月日が挿入されます。ただし、プリンターによっては対応していない場合があります。

[枚数]

– [インデックス]が[切]のとき：
画像のプリント枚数を設定。シングルプリントされます。

– [インデックス]が[入]のとき：
選択した画像のインデックスプリント枚数を設定。手順1で[この画像]を選んだときは、同じ画像を1枚の用紙に並べる数になります。

- インデックスプリント時、画像の枚数によっては、1枚の用紙に指定枚数分の画像が収まらないことがあります。

3 ▼/▶に動かして[実行]を選び、中央を押す。

画像がプリントされる。

- （USBケーブル抜き禁止）マークが画面に表示されているときは、USBケーブルを抜かないでください。



（USBケーブル抜き禁止）マーク

他の画像をプリントするには

手順3のあと、▲/▼で[選択]を選んで画像を選び、手順1から行う。

インデックス画面でプリントするには

「操作1：本機を準備する」（102ページ）と「操作2：本機とプリンターをつなぐ」（103ページ）のあと、以下を行ってください。

本機とプリンターを接続すると、プリントメニューが表示されます。[キャンセル]を押してプリントメニューを消してから下記の手順を行ってください。

① 🕓/ ▦（インデックス）ボタンを押す。
インデックス画面が表示される。

② MENUボタンを押す。
メニューが表示される。

③ ▶に動かして[🖶]（プリント）を選び、中央を押す。

④ ▲/▼に動かして希望のプリント種類を選び、中央を押す。



[選択]

画像を順に選ぶ。選んだすべての画像をプリントする。

▲/▼/◀/▶に動かしてプリントしたい画像を選び、中央を押して✔マークを付ける。（他の画像も選ぶには、この手順を繰り返す。）次に、MENUボタンを押す。

[DPOF画像]

表示されている画像と関係なく、🖶✔（プリント予約）マークが付いているすべての画像をプリントする。

[フォルダ内全て]

フォルダ内のすべての画像をプリントする。

⑤「操作3：プリントする」（103ページ）の手順2～3を行う。

お店でプリントする

画像を撮影した記録メディアをプリントサービス店に持参します。DPOF規格対応のお店でプリントするときは、（プリント予約）マークを付けて、プリントしたい画像を本機であらかじめ予約できます。

DPOF（ディーポフ）規格とは

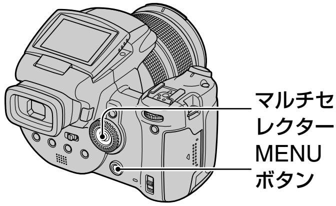
Digital Print Order Formatの略です。（プリント予約）マークを付けて、プリントしたい画像を記録メディア上に指定することができます。

- DPOF対応プリンター、PictBridge対応プリンターでも、プリント予約マークを付けた画像をプリントできます。
- RAWデータファイルには、プリント予約マークは付けられません。

お店に記録メディアを持参するときには

- 対応している記録メディアの種類はお店にお問い合わせください。
- “メモリースティック”/マイクロドライブ/CFカードに対応していないプリントサービス店の場合は、CD-Rなどに画像データをコピーして持参してください。
- “メモリースティック デュオ”の場合は、メモリースティック デュオ アダプターも持参してください。
- プリントサービス店をご利用前に、必ずデータのバックアップを取ってください。
- プリント枚数の設定はできません。

シングル画面でプリント予約マークを付ける



1 予約したい画像を表示する。

2 MENUボタンを押し、メニューを表示する。

3 マルチセレクターを◀/▶に動かして[DPOF]を選び、中央を押す。

画像に（プリント予約）マークが付く。



4 他の画像にもマークを付けたいときは、◀/▶に動かしてマークを付けたい画像を表示させ、中央を押す。

シングル画面でプリント予約マークを消すには

手順3または4で中央を押す。

インデックス画面でプリント予約マークを付ける

1 **インデックス画面にする。（→*別冊「はじめに」手順6*）**

2 **MENUボタンを押し、メニューを表示する。**

3 **マルチセレクターを◀/▶に動かして[DPOF]を選び、中央を押す。**

4 **▲/▼に動かして[選択]を選び、中央を押す。**

- [フォルダ内全て]ではマークを付けられません。

5 **▲/▼/◀/▶に動かしてマークを付けたい画像を選び、中央を押す。**

画像に緑色のマークが付く。



緑色の
マーク

6 **他の画像にもマークを付けたいときは、手順5を繰り返す。**

7 **MENUボタンを押す。**

8 **▶で[実行]を選び、中央を押す。**

マークが白色に変わる。

中止するには、手順4で[キャンセル]、または手順8で[終了]を選んで中央を押す。

インデックス画面でプリント予約マークを消すには

手順5でマークを消したい画像を選び、中央を押す。

フォルダ内の全画像の予約マークを消すには

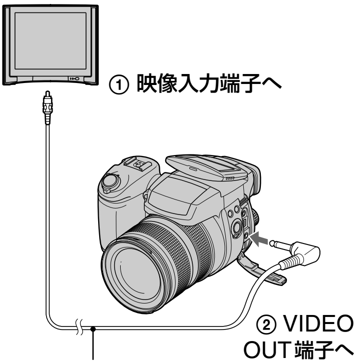
手順4で[フォルダ内全て]を選び、中央を押し、次に[切]を選んで中央を押す。

テレビで見る

本機とテレビをつないで、撮影した画像をテレビで見ることができます。

本機とテレビの電源を切った状態で接続してください。

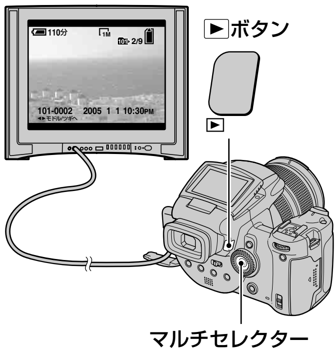
1 付属のビデオケーブルで本機とテレビを接続する。



2 テレビの電源を入れ、テレビ/ビデオ切り換えスイッチを「ビデオ」にする。

- 詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 本機の電源を入れ、▶（再生）ボタンを押す。



撮影した画像がテレビに表示される。

マルチセレクターを◀/▶に動かして画像を選ぶ。

- 海外で見るときは［ビデオ信号出力］の切り換えが必要な場合があります（83ページ）。

- Adobe RGBで撮影した画像を、本機やAdobe RGB（DCF2.0/Exif2.21）に対応していない液晶モニターやテレビなどのsRGB環境下で再生すると、低彩度な画像になります。

故障かな？と思ったら

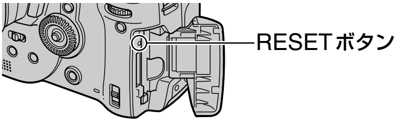
困ったときは、下記の流れに従ってください。

❶ 110 ～ 120ページの項目をチェックし、本機を点検する。

画面に「C/ E：□□：□□」のような表示が出たときは、121ページをご覧ください。

❷ RESETボタンを先の細いもので押してから、電源を入れる（リセット）。

この操作を行うと、日時などの設定は解除されます。



❸ デジタルイメージングカスタマーサポートのホームページで確認する。

http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

❹ テクニカルインフォメーションセンターに電話で問い合わせる（裏表紙）。

バッテリー・電源

バッテリーが充電できない。

- 電源が入っていると充電できません。電源を切る（→*別冊「はじめに」手順2*）。

本機にバッテリーを入れられない。

- バッテリーの先端でバッテリー取りはずしつまみをカメラ正面側に押しながら入れる（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- 正しい向きに入れる（→*別冊「はじめに」手順1*）。

バッテリー充電中、⚡/CHGランプが点滅する。

- バッテリーが正しく取り付けられているか確認する（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- バッテリーが消耗しています。ACアダプターを1度抜き差ししてからバッテリーを充電する。
- バッテリーが故障している可能性があります。テクニカルインフォメーションセンターに問い合わせる（裏表紙）。

バッテリー充電中、⚡/CHGランプが点灯しない。

- ACアダプターがはずれていないか確認する。
- バッテリーが正しく取り付けられているか確認する（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- 充電が完了していると、⚡/CHGランプは点灯しません。
- バッテリーが消耗しています。ACアダプターを1度抜き差ししてからバッテリーを充電する。
- ACアダプターが故障している可能性があります。テクニカルインフォメーションセンターに問い合わせる（裏表紙）。

バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。

- 温度が極端に高いまたは低いところで使用しているときの現象です（128ページ）。
- 残量表示と実際の残量にズレが生じています。バッテリーを1度使い切ってから充電すると正しい表示に戻ります。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付ける（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- バッテリーの寿命です（128ページ）。新しいバッテリーと交換する。

バッテリーの消耗が早い。

- 充分に充電する（→*別冊「はじめに」手順1*）
- 温度が極端に低いところで使用しているときの現象です（128ページ）。
- バッテリー端子が汚れていると、充電が充分できません。綿棒などで掃除する。
- バッテリーの寿命です（128ページ）。新しいバッテリーと交換する。
- バッテリーの充電が終わったら、DCプラグを本機から取りはずす。

電源が入らない。

- バッテリーが正しく取り付けられているか確認する（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- ACアダプターがはずれていないか確認する。
- ACアダプターが故障している可能性があります。テクニカルインフォメーションセンターに問い合わせる（裏表紙）。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付ける（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- バッテリーの寿命です（128ページ）。新しいバッテリーと交換する。

電源が途中で切れる

- パワーセーブ機能を使っているときは、操作しない状態が一定時間続くと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的にスタンバイ状態になります。シャッターボタン、▶ボタンを押すか、ACアダプターを使う（→*別冊「はじめに」手順2*）。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付ける（→*別冊「はじめに」手順1*）。

静止画を撮る

電源を入れても液晶画面がつかない。

- FINDER/AUTO/LCDスイッチを「FINDER」以外にする（→*別冊「はじめに」手順5*）。

ファインダーの画像がはっきりしない。

- 視度を正しく調節する（→*別冊「はじめに」手順5*）。

撮影できない。

- 記録メディアの空き容量を確認する（22ページ）。いっぱいのときは、下記のいずれかを行う。
  – 不要な画像を削除する（→*別冊「はじめに」手順6*）。
  – 記録メディアを交換する。
- /CFスイッチを正しく設定する（→*別冊「はじめに」手順3*）。
- "メモリースティック"の誤消去防止スイッチを解除する（125ページ）。
- フラッシュ充電中は撮影できません。
- 再生モードになっている。▶ ボタンを押すかシャッターを半押しして撮影モードにする（→*別冊「はじめに」手順6*）。

画面に被写体が写らない。

- 再生モードになっている。▶ ボタンを押すかシャッターを半押しして撮影モードにする（→*別冊「はじめに」手順6*）。
- FINDER/AUTO/LCDスイッチが「AUTO」になっているとき、ファインダー部に体などを近づけすぎると、自動でファインダーに切り換わってしまう場合があります。FINDER/AUTO/LCDスイッチを確認してください。

撮影に時間がかかる。

- NRスローシャッター機能が働いている（36ページ）。故障ではありません。
- RAWモードで撮影している（60ページ）。RAWモードでの撮影はデータ量が大きいため、撮影に多少時間がかかる場合があります。

ピント（フォーカス）が合わない。

- 被写体が近すぎるためです。近接（マクロ）撮影モードにし、ϕ 距離基準表示からの最短撮影距離（W側約35cm、T側約40cm）より離して撮影する（→*別冊「はじめに」手順5*）。
- シーンセレクションの ☽（夜景モード）、▲（風景モード）が選ばれていると、ピントが合わない場合があります。
- マニュアルフォーカスのときは、FOCUSスイッチを「AUTO」にする（47ページ）。

プレシジョンデジタルズームができない。

- [デジタルズーム]を[プレシジョン]にする（71ページ）。
- RAWモード撮影時はプレシジョンデジタルズームできません（60ページ）。

スマートズームができない。

- [デジタルズーム]を[スマート]にする（71ページ）。
- 下記のとき、スマートズームできません。
  – 画像サイズが[10M]
  – RAWモード撮影時

フラッシュ撮影ができない。

- フラッシュの設定が ⓢ(発光禁止)になっている(49ページ)。
- 以下のときは、フラッシュ撮影できません。
  –連写のとき(59ページ)
  –ブラケットモードのとき(43ページ)
  –シーンセレクションの ☽(夜景モード)が選ばれているとき(29ページ)
- シーンセレクションの ▲(風景モード)、が選ばれているときは、ϟ(強制発光)または◉(強制発光赤目)にする(49ページ)。
- [ポップアップフラッシュ]が[マニュアル]になっているときは、ϟボタンを押してフラッシュ発光部を持ち上げてください(50ページ)。

フラッシュ撮影した画像に、ぼんやりとした丸い斑点が写っている。

- 空気中のホコリがフラッシュの強い光に反射して写りこんだためです。故障ではありません。

近接(マクロ)撮影ができない。

- シーンセレクションの ☽(夜景モード)、▲(風景モード)が選ばれているときは、近接(マクロ)撮影できません(29ページ)。

正しい撮影日時が記録されない。

- 日付・時刻を合わせる(→*別冊「はじめに」手順2*)。

シャッターを半押しするとF値、シャッタースピードが点滅する。

- 露出が合っていません。露出補正する(38、40ページ)。

画像が暗い。

- 逆光になっています。測光モード選択(39ページ)、または露出補正(40ページ)する。
- 画面が暗いときは、液晶画面、ファインダーの明るさを調節する(81ページ)。

画像が明るい。

- 舞台など暗いところでスポットライトが当たっている状態で撮影しています。露出補正する(40ページ)。
- 画面が明るすぎるときは、液晶画面、ファインダーの明るさを調節する(81ページ)。

画像の色が正しくない。

- ピクチャーエフェクトを解除する(64ページ)。

暗い場所で画面を見ると画像にノイズが目立つ。

- 暗い場所でも確認できるように、画面を一時的に明るくする機能が働いています(オートブライトモニタリング)。撮影される画像には影響ありません。

縞々のノイズが画面に見える。

- フリッカーという現象です。故障ではありません（62ページ）。
- 電源周波数の設定が誤っているとフリッカーが発生する場合があります。（セットアップ）画面の［フリッカー軽減］の設定を確認してください（62ページ）。

被写体の目が赤く写る。

- 赤目軽減モードにする（50ページ）。
- 被写体に近づいてフラッシュ推奨撮影距離内（49ページ）で撮影する。
- 室内を明るくして撮影する。

縞々のゼブラ模様が画面に見える。

- ［ゼブラ］が［入］になっている（41ページ）。必要でない場合は解除してください。

縦横に格子状の線が画面に見える。

- ［グリッドライン］が［入］になっている（61ページ）。必要でない場合は解除してください。

画面に点が現れて消えない。

- 故障ではありません。これらの点は記録されません（9ページ、→*別冊「はじめに」*）。

連写できない。

- 記録メディアの容量がいっぱいです。不要な画像を削除する（→*別冊「はじめに」手順6*）。
- バッテリーの残量が足りない。充電されたバッテリーを取り付ける。
- （夜景モード）または（夜景＆人物モード）が選ばれているときは、連写できません（29ページ）。

画像を見る

「パソコン」（115ページ）もあわせてご覧ください。

再生できない。

- ▶（再生）ボタンを押して再生モードにする（→*別冊「はじめに」手順6*）。
- パソコンでフォルダ/ファイルの名前を変更したためです（94ページ）。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生は保証いたしません。
- USBモードになっています。USB接続を終了する（92ページ）。

表示直後に再生画像が粗い。

- 画像処理のため、表示直後は画像が粗くなります。故障ではありません。

テレビに画像が出ない。

- [ビデオ信号出力]が[NTSC]になっているか確認する(83ページ)。
- 接続が正しいか確認する(108ページ)。
- USB端子が接続されている。正しい手順に従って取りはずす(92ページ)。

画像を削除する/編集する

削除できない。

- 画像のプロテクトを解除する(66ページ)。
- "メモリースティック"の誤消去防止スイッチを解除してください(125ページ)。

誤って消してしまった。

- 1度削除した画像は元に戻せません。画像にプロテクトをかける(66ページ)か、"メモリースティック"の誤消去防止スイッチを「LOCK」にしてください(125ページ)。

リサイズができない。

- RAWデータファイルはリサイズできません。

プリント予約マークが付かない。

- RAWデータファイルにはプリント予約マークを付けられません。

パソコン

パソコンとの接続方法や最新サポート情報はデジタルイメージングカスタマーサポートのホームページをご覧ください。

http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

対応しているOSが分からない。

- 「パソコンの推奨環境」を確認する(85、98ページ)。

USBドライバをインストールできない。

- Windows 2000を使用している場合は、Administrator(管理者権限)でログオンする(87ページ)。

本機がパソコンに認識されない。

- 本機の電源が入っているか確認する（→*別冊「はじめに」手順2*）。
- バッテリー残量が少ないときは、ACアダプターを使用する（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- 接続には、付属のUSBケーブルを使う（89ページ）。
- 1度パソコンと本機からUSBケーブルを抜いて再びしっかりと差し込み、「USBモード Mass Storage」と表示されているか確認する（89ページ）。
- ［USB接続］を［Mass Storage］にする（82ページ）。
- パソコンのUSB端子に、本機/キーボード/マウス以外の機器が接続されているときは、取りはずす。
- USBハブ経由などでなく、本機とパソコンを直接接続する（89ページ）。
- USBドライバがインストールされていないときは、インストールする（87ページ）。
- CD-ROM（付属）から「USBドライバ」をインストールする前に、USBケーブルで本機とパソコンを接続したため、デバイスが正しく認識されていない。正しく認識されなかったデバイスを削除してからUSBドライバをインストールする（次の項目）。

本機とパソコンをUSB接続しても、パソコン画面に「リムーバブルディスク」が表示されない。

- 下記の手順をパソコンで行い、USBドライバをインストールしなおす。

  以下は、Windowsパソコンの手順です。

  1 ［マイコンピュータ］を右クリックしてメニューを表示し、［プロパティ］をクリック。
  「システムのプロパティ」画面が表示される。

  2 ［ハードウェア］タブ→［デバイスマネージャ］の順にクリック。
  • Windows98/98SE/Meをお使いの場合は、［デバイスマネージャ］タブをクリック。
  「デバイスマネージャ」が表示される。

  3 ［Sony DSC］を右クリックし、［削除］→［OK］の順にクリック。
  デバイスが削除される。

  4 USBドライバをインストールする（87ページ）。

画像をコピーできない。

- 本機とパソコンを正しくUSB接続する（89ページ）。
- OSに対応した手順でコピーする（89、98ページ）。
- パソコンでフォーマットした記録メディアで撮影した場合、画像をパソコンへコピーできないことがあります。本機でフォーマットした記録メディアで撮影する（77、79ページ）。

USB接続をしたときに「PicturePackage」が自動起動しない。

- 「PicturePackage Menu」を起動し、［設定］を確認する。
- パソコンの電源を入れた状態でUSB接続をする（89ページ）。

画像を再生できない。

- 「PicturePackage」をお使いの場合は、各画面右上のヘルプをご覧ください。
- パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

画像をプリントできない。

- プリンターの設定を確認する。

パソコンからコピーした画像ファイルが本機で見られない。

- 101MSDCFなど本機で認識するフォルダにコピーする（93ページ）。
- 正しい手順で操作する（94ページ）。

“メモリースティック”

本機に入らない。

- 正しい向きで入れる（→*別冊「はじめに」手順3*）。

記録できない。

- “メモリースティック”の誤消去防止スイッチを解除してください（125ページ）。
- “メモリースティック”の容量がいっぱいになっているときは、不要な画像を削除する（→*別冊「はじめに」手順6*）。
- /CFスイッチを「」にする（→*別冊「はじめに」手順3*）。

フォーマットできない。

- “メモリースティック”の誤消去防止スイッチを解除してください（125ページ）。

誤ってフォーマットしてしまった。

- “メモリースティック“内のデータはすべて消去され、元に戻せません。誤消去防止スイッチを「LOCK」にする（125ページ）と誤フォーマットを防げます。

“メモリースティック”スロット付きパソコンで“メモリースティック PRO”が認識されない。

- パソコンおよびカードリーダーが“メモリースティック PRO”に対応しているかご確認ください。ソニーバイオをお使いの場合、サイバーショットのサポートページをご覧いただきますと、対応の有無が確認できます（裏表紙）。ソニー製以外のパソコンおよびカードリーダーをお使いの場合は、各メーカーにお問い合わせください。
- “メモリースティック PRO”非対応の場合は、本機をパソコンにつないでください（87 ～ 90ページ）。パソコンが“メモリースティック PRO”を認識します。

マイクロドライブまたはCFカード

本機に入らない。

- 本機では使えないCFカードを入れようとしている（127ページ、→*別冊「はじめに」手順3*）。
- マイクロドライブまたはCFカードを入れる向きが違っている。正しい向きにして入れる（→*別冊「はじめに」手順3*）。

記録できない。

- マイクロドライブまたはCFカードの容量がいっぱいになっている。不要な画像を削除する（→*別冊「はじめに」手順6*）。
- 本機では使えないCFカードが入っている（127ページ、→*別冊「はじめに」手順3*）。
- “メモリースティック” /CFカードカバーが開いている。カバーを閉じる（→*別冊「はじめに」手順3*）。
- /CFスイッチを「CF」にする（→*別冊「はじめに」手順3*）。
- 誤消去防止スイッチのある記録メディアを使用し、スイッチが「LOCK」になっている。解除してください。

マイクロドライブが熱くなっている。

- 長時間使用している。故障ではない。

誤ってフォーマットしてしまった。

- フォーマットすると、マイクロドライブまたはCFカード内のデータはすべて消去され、元に戻せない。

プリントする

次の「PictBridge対応プリンター」も合わせてご覧ください。

画像の色合いがおかしい。

- Adobe RGBで撮影した画像を、Adobe RGB（DCF2.0/Exif2.21）に対応していないsRGB環境下のプリンターで印刷すると、低彩度な画像になります（57ページ）。

PictBridge対応プリンター

プリンターと接続できない。

- 本機は、PictBridge非対応プリンターには直接接続できません。対応の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- プリンターの電源が入り、接続可能な状態になっていることを確認する。
- “メモリースティック”またはCFカードなどの記録メディアが本機に入っていないと接続できません。記録メディアを本機に入れて接続し直してください。
- ［USB接続］を［PictBridge］にする（82ページ）。
- USBケーブルを抜いて、接続しなおす。プリンターにエラー表示が出ている場合は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。

プリントできない。

- 本機とプリンターがUSBケーブルで正しく接続されているか確認する。
- プリンターの電源が入っているか確認する。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。
- プリント中に「終了」を選ぶと、再びプリントできない場合があります。USBケーブルを抜いて、接続しなおす。それでも復帰しないときは、USBケーブルをもう1度抜き、プリンターの電源を入れなおしてから接続しなおす。
- RAWデータファイルはプリントできません。
- 本機以外で撮影した静止画、またはパソコンで加工した画像はプリントできない場合があります。

プリントが中断される。

- （USBケーブル抜き禁止）マークが消える前に、USBケーブルを抜いた。
- 操作の途中で/CFスイッチを切り換えた。

日付挿入/インデックスプリントができない。

- プリンターが日付挿入/インデックスプリントに対応してない。対応の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- プリンターによっては、インデックスプリントでは日付が挿入されない場合があります。プリンターのメーカーにお問い合わせください。

日付部分に「---- -- --」などが印刷される。

- 画像ファイルに印刷可能な撮影日時情報が入っていない。［日付］を［切］にしてプリントしてください（104ページ）。

プリントしたい用紙サイズが選択できない。

- プリンターがプリントしたい用紙サイズに対応しているか、プリンターのメーカーにお問い合わせください。

プリンターの用紙サイズどおりに印刷できない。

- 本機とプリンターを接続したあとにプリンターの用紙を別のサイズの用紙と取り換えた場合は、1度USBケーブルを抜いてプリンターを接続しなおしてください。
- 本機での印刷設定と、プリンターの設定が合っていない。本機の用紙サイズ設定を変更する（104ページ）か、プリンターの用紙設定を変更する。

印刷を中止すると、他の操作ができない。

- プリンターが印刷中止の処理をしているので、しばらくお待ちください。プリンターによっては時間がかかることがあります。

その他

操作を受け付けない。

- 本機で使えるバッテリーを使う（128ページ）。
- 表示時は、バッテリー残量が少ない。充電する（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- パワーセーブモードに入っている。シャッターを押すか、▶（再生）ボタンを押すとパワーセーブモードから復帰します。
- FINDER/AUTO/LCDスイッチが「LCD」になっているとき、液晶画面を本体側に向けて閉じてしまうとMENUボタンなどが使えません。ファインダーに切り換えるか、液晶画面の角度を変えてください。

電源が入っているのに操作できない。

- 内部システムが誤動作しています。バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを入れ、本機の電源を入れる。これでも操作できないときはリセットする（109ページ）。

画面上の表示が分からない。

- 18ページをご覧ください。

レンズがくもる。

- 結露している。電源を切って約1時間そのままにしてから使用する（129ページ）。

電源を入れると、時刻設定画面が表示される

- 時刻を設定しなおす（→*別冊「はじめに」手順2*）。

リモートコマンダーなどの別売りアクセサリーから電源の入/切ができない。

- 本機のPOWERスイッチが「OFF」の位置になっているときは、リモートコマンダーなどから電源の入/切ができません。1度本機の電源を入れて、POWERスイッチを「ON」の位置にしてください（→*別冊「はじめに」手順2*）。

自己診断表示と警告表示

自己診断表示

画面にアルファベットで始まる表示が出たら、本機の自己診断機能が働いています。表示の末尾2桁(□□)の数字は、本機の状態によって変わります。
下記の対処を2、3度繰り返しても正常な状態に戻らないときは、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください(裏表紙)。

C:32:□□

- ハードウェアの異常。電源を入れなおす。

C:13:□□

- データが読めない/書けない。記録メディアを数回抜き差しする。
- フォーマットしていない記録メディアを入れた。フォーマットする(77、79ページ)。
- 本機では使えない記録メディアを入れた。またはデータが壊れている。記録メディアを交換する(125ページ、→*別冊「はじめに」手順3*)。

E:61:□□

E:91:□□

- 何らかの異常が起きている。リセット(109ページ)してから、電源を入れる。

警告表示

画面には、次のような表示が出ることがあります。

- バッテリーの残量が少ない。バッテリーを充電する(→*別冊「はじめに」手順1*)。ご使用状況やバッテリーの種類によっては、バッテリー残量が5分から10分でも点滅することがあります。

"インフォリチウム"バッテリーを使ってください

- "インフォリチウム"対応以外のバッテリーを使っている。

システムエラー

- 電源を入れなおす(→*別冊「はじめに」手順2*)。

メモリースティックを入れて下さい

CFカードを入れて下さい

- PictBridge接続前に本機に記録メディアを入れてください。
- PictBridge接続前および接続中は"メモリースティック"/CFカードカバーを閉じてください。

メモリースティックがありません

- "メモリースティック"を入れてください(→*別冊「はじめに」手順3*)。
- /CFスイッチを「CF」にして、マイクロドライブまたはCFカードで撮ってください。

メモリースティックを入れ直してください

- “メモリースティック”を入れなおす。
- 本機では使えない“メモリースティック”が入っている(125ページ)。
- “メモリースティック”が壊れている。
- “メモリースティック”端子が汚れている。

非対応のメモリースティックです

- 本機では使えない“メモリースティック”が入っている(125ページ)。

フォーマットエラー

- フォーマットしなおす(77、79ページ)。
- 誤消去防止スイッチのある記録メディアを使用し、スイッチが「LOCK」になっている。解除してください(125ページ)。
- コンパクトフラッシュスロット対応メモリースティック デュオ アダプターを使ってフォーマットはできません。

メモリースティックがロックされています

- メモリースティック”の誤消去防止スイッチを解除する(125ページ)。

メモリースティックの残量がありません

- 不要な画像やデータを消去する(→*別冊「はじめに」手順6*)。

読み出し専用のメモリースティックです

- この“メモリースティック”への画像記録や消去はできません。

CFカードがありません

- マイクロドライブまたはCFカードを入れてください(→*別冊「はじめに」手順3*)。
- /CFスイッチを「」にして、“メモリースティック”で撮ってください(→*別冊「はじめに」手順3*)。

CFカードを入れ直してください

- マイクロドライブまたはCFカードを入れなおす。
- 本機では使えないCFカードが入っている(127ページ)。
- マイクロドライブまたはCFカードが壊れている。
- マイクロドライブまたはCFカードの端子が汚れている。

非対応のCFカードです

- 本機では使えないCFカードが入っている(127ページ)。

CFカードがロックされています

- マイクロドライブまたはCFカードが記録できない状態になっている。記録メディアの取扱説明書をご覧ください。

CFカードの残量がありません

- 不要な画像やデータを消去する(→*別冊「はじめに」手順6*)。

ふたを閉めて下さい

- “メモリースティック”/CFカードカバーを閉じてください(→*別冊「はじめに」手順3*)。
- PictBridge接続前および接続中は“メモリースティック”/CFカードカバーを閉じてください(102ページ)。

ふたが開いています

- "メモリースティック" /CFカードカバーを閉じてください(→*別冊「はじめに」手順3*)。

液晶画面を開いて下さい

- FINDER/AUTO/LCDスイッチが「LCD」になっている状態で液晶画面が閉じられています。開いてお使いください。または、FINDER/AUTO/LCDスイッチを「FINDER」または「AUTO」にしてください(→*別冊「はじめに」手順5*)。

マクロは無効です

- シーンセレクションの☽(夜景モード)、▲(風景モード)を選んでいるときマクロ撮影にすると表示されます。このとき、マクロ機能は働きません。

マニュアルフォーカスは無効です

- モードダイヤルが「📷」のときに、FOCUSスイッチを「MANUAL」にした。

FRAMINGモードは無効です

- マニュアルフォーカス時はFRAMINGモードに設定していても、PREVIEWモードでの動作になります。

このフォルダにはファイルがありません

- フォルダ内に画像が記録されていない。
- パソコンからのファイルコピー方法が正しくない(94ページ)。

フォルダエラー

- 上3桁の番号が同じフォルダが記録メディア内にある。(例:123MSDCFと123ABCDE)。別のフォルダを選択するか、フォルダを作成する(77ページ)。

これ以上フォルダ作成できません

- 上3桁の番号が「999」のフォルダが記録メディア内にある。本機でこれ以上のフォルダを作成できません。

記録できません

- 本機で記録フォルダに設定できないフォルダを選択した。他のフォルダを選択する(78ページ)。

ファイルエラー

- 画像再生時に異常が発生した。

ファイルがプロテクトされています

- プロテクトを解除する(66ページ)。

画像サイズオーバーです

- 本機で再生できないサイズの画像を再生しようとしている。

無効な操作です

- 本機に対応していないファイルを再生しようとしている。

(手ぶれ警告表示)

- 光量不足のため、手ぶれが起こりやすい状況になっているので、フラッシュを使用する。または、三脚などで本機をしっかりと固定する。

困ったときは

接続先を確認してください

- 本機の設定が［PictBridge］になっているのに、PictBridgeに対応していない機器と接続している。接続している機器を確認する。
- 接続が確立できない。USBケーブルを抜いて、接続しなおす。プリンターにエラー表示が出ている場合は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。

PictBridge機器と接続してください

- プリンターと接続する前にプリントしようとした。PictBridge対応のプリンターと接続する。

プリントできる画像がありません

- プリント予約マークを付けないで［DPOF画像］を実行しようとした。
- RAWデータファイルしか入っていないフォルダを選んで、［フォルダ内全て］を実行しようとした。RAWデータファイルはプリントできません。

プリンタービジー

用紙エラー

用紙がなくなりました

インクエラー

インクが少なくなりました

インクがなくなりました

- プリンターを確認する。

プリンターエラー

- プリンターを確認する。
- プリントしたい画像が壊れていないか確認する。



- 接続しているプリンターへのデータ転送が完了していない可能性がある。USBケーブルを抜かないでください。

処理中

- プリンターが印刷中止処理を行っている。処理が完了するまでは印刷できません。プリンターによっては処理に時間がかかることがあります。

“メモリースティック”について

“メモリースティック”は、小さくて軽いIC記録メディアです。“メモリースティック”のうち、本機で使えるのは下表のとおりです。ただし、すべての“メモリースティック”の動作を保証するものではありません。

“メモリースティック”の種類	記録・再生
メモリースティック（マジックゲート非対応）	○
メモリースティック（マジックゲート対応）	○*2*3
メモリースティック デュオ（マジックゲート非対応）*1	○
メモリースティック デュオ（マジックゲート対応）*1	○*2*3
マジックゲート メモリースティック	○*2
マジックゲート メモリースティック デュオ*1	○*2
メモリースティック PRO	○*2*3
メモリースティック PRO デュオ*1	○*2*3

*1 本機でご使用の場合は、必ずメモリースティック デュオ アダプターに装着してからお使いください。

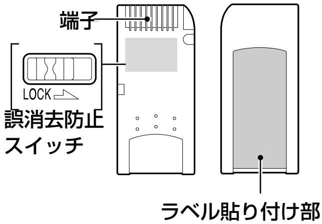
*2 マジックゲート搭載の“メモリースティック”です。“マジックゲート”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。本機ではマジックゲート機能が必要なデータの記録/再生はできません。

*3 パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しております。

- パソコンでフォーマットした“メモリースティック”は、本機での動作を保証しません。
- お使いの“メモリースティック”と機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。

“メモリースティック”（別売り）使用上のご注意

- 誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると記録や編集、消去ができなくなります。



誤消去防止スイッチの有無や位置、形状は、お使いの“メモリースティック”によって異なることがあります。

- データの読み込み中、書き込み中には“メモリースティック”を取り出さないでください。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  – 読み込み中、書き込み中に“メモリースティック”を取り出したり、本機の電源を切った場合
  – 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- 大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。
- ラベル貼り付け部には、専用ラベル以外は貼らないでください。
- ラベルを貼るときは、所定のラベル貼り付け部に貼ってください。はみ出さないようにご注意ください。
- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。

- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水に濡らさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  - 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
  - 直射日光のあたる場所
  - 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

“メモリースティック デュオ”(別売り)使用上のご注意

- “メモリースティック デュオ”を本機でお使いの場合は、必ず“メモリースティック デュオ”をメモリースティック デュオ アダプターに入れてからお使いください。アダプターに装着されていない状態で挿入されますと“メモリースティック デュオ”が取り出せなくなる可能性があります。
- “メモリースティック デュオ”をメモリースティック デュオ アダプターに入れるときは正しい挿入方向をご確認ください。
- “メモリースティック デュオ”をメモリースティック デュオ アダプターに装着して本機でご使用になるときは、正しい挿入方向を確認の上ご使用ください。間違ったご使用は機器の破損の原因となりますのでご注意ください。
- メモリースティック デュオ アダプターに“メモリースティック デュオ”が装着されていない状態で、“メモリースティック”対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じることがあります。
- “メモリースティック デュオ”をフォーマットするときは、“メモリースティック デュオ”をメモリースティック デュオ アダプターに装着してください。
- “メモリースティック デュオ”に誤消去防止スイッチがついている場合、誤消去防止を解除してお使いください。

“メモリースティック PRO”(別売り)使用上のご注意

- 本機で動作確認されている“メモリースティック PRO”は2GBまでです。

マイクロドライブについて

マイクロドライブはCompactFlash TypeIIに準拠した小型、軽量のハードディスクドライブです。
本機では以下のマイクロドライブで動作確認を行っております。
日立グローバルストレージテクノロジーズ社製
– DSCM-11000（1GB）
– 3K4-2 2GB（HMS 360402D 5CF00）
– 3K4-4 4GB（HMS 360404D 5CF00）
– 3K6-4 4GB（HMS 360604D 5CF00）
– 3K6-6 6GB（HMS 360606D 5CF00）

マイクロドライブ使用上のご注意

- 初めてお使いになるときは、必ず本機でフォーマットしてからお使いください。
- マイクロドライブは小型ハードディスクドライブです。回転系記録媒体であるため、フラッシュメモリーを使用した"メモリースティック"に比べ振動や衝撃に強くありません。
  マイクロドライブ使用時、特に記録や再生中はカメラに振動や衝撃を与えないよう充分にご注意ください。
- 以下の場合、データが破損したりマイクロドライブそのものが使用できなくなることがあります。
  – データの読み込み中、書き込み中にマイクロドライブを取り出した場合
  – 強い磁気のそばにマイクロドライブを近づけた場合
- 5℃以下の環境でのご使用は、マイクロドライブの性能劣化を招く場合がありますのでご注意ください。
  マイクロドライブ使用時の動作温度：
  ＋5℃～＋40℃
- 気圧の低い場所（海抜3000 m以上）ではご使用になれませんのでご注意ください。
- 使用直後はマイクロドライブが熱くなっている場合があります。取り扱いには充分ご注意ください。
- マイクロドライブのラベルには何も記入しないでください。
- マイクロドライブのラベルをはがさないでください。また、上からラベルを重ねて貼らないでください。
- マイクロドライブの持ち運び時や保管時は、マイクロドライブ同梱の専用保護ケースにいれてください。
- 水に濡らさないでください。
- ラベル面を強く押さないでください。
- マイクロドライブの側面部分を持って扱ってください。また強く押さないでください。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて

本機では、NP-FM50のみ使用できます。

“インフォリチウム”バッテリーは、本機との間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。
“インフォリチウム”バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。

充電について

周囲の温度が10℃～30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。
- フラッシュ撮影、ズーム撮影などを頻繁にすると、バッテリーの消費が早くなります。
- 撮影には予定撮影時間の2～3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしてください。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などに濡らさないようにご注意ください。
- 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所に放置しないでください。

バッテリーの残量表示について

バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、本機で使い切ってから再び満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし長時間高温で使用したり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長時間使用しない場合でも、機能を維持するために、1年に1回程度満充電にして本機で使い切り、その後本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、「スライドショー」再生（68ページ）にして、電源が切れるまでそのままにしてください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

使用上のご注意

■ 置いてはいけない場所

- 異常に高温になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近く
  変色したり、変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。

■ 持ち運びについて

- 液晶画面を本体側に向けて閉じてください。
- ズームをＷ側いっぱいにしてレンズ部を収納してください。
- レンズキャップを付けてください。

■ お手入れについて

液晶画面をきれいにする

液晶画面に指紋やゴミが付いて汚れたときは、別売りの液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。

レンズをきれいにする

レンズに指紋やゴミが付いて汚れたときは、柔らかい布などを使ってきれいにすることをおすすめします。

表面をきれいにする

水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下はご使用にならないでください。

- シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類
- 上記が手についたまま本機を扱うこと
- ゴムやビニール製品との長時間の接触

■ 動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0℃～ 40℃です（マイクロドライブ使用時：5℃～ 40℃）。動作温度範囲を越える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

■ 結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露が起こりやすいのは

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき、など。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約１時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約１時間放置し、結露がなくなってからご使用ください。特にレンズの内側に付いた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

■ 内蔵の充電式電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切に関係なく保持するために充電式電池を内蔵しています。充電式電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し1か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。ただし、充電式電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。

内蔵の充電式電池の充電方法

本機に充電されたバッテリーを入れるか、ACアダプターを使ってコンセントにつないで、電源を切ったまま24時間以上放置する。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーの充電方法

→*別冊「はじめに」手順1*

主な仕様

本体

[システム]

撮像素子	21.5×14.4mm カラーCMOSセンサー 原色系3色フィルター
総画素数	約10 784 000画素
カメラ 有効画素数	約10 286 000画素
レンズ	カール ツァイス バリオ・ゾナー T* 5倍ズームレンズ f=14.3 ～ 71.5 mm （35 mmカメラ換算では24 ～ 120 mm）、F2.8 ～ 4.8 フィルター径：67 mm
露出制御	自動、シャッター優先、絞り優先、マニュアル露出、シーンセレクション（4モード）
ホワイト バランス	オート、太陽光、曇天、蛍光灯、電球、フラッシュ、ワンプッシュ
記録方式 （DCF準拠）	静止画：Exif Ver. 2.21 JPEG準拠、RAW（SR2）、DPOF対応
記録メディア	“メモリースティック” マイクロドライブ コンパクトフラッシュカード（TypeI/TypeII）
フラッシュ	推奨撮影距離（ISO感度がAUTOのとき）約0.5 ～ 8.5 m（W）/約0.4 ～ 5.0 m（T）
ファインダー	電子ファインダー（カラー）

[入出力端子]

VIDEO OUT端子	ミニジャック 1 Vp-p、75 Ω不平衡、同期負
ACC端子	ミニミニジャック （ø2.5 mm）
USB端子	mini-B
USB通信	Hi-Speed USB（USB 2.0準拠）

[液晶画面]

液晶パネル	5.1cm（2.0型）TFT駆動
総ドット数	134 000（560×240）ドット

[ファインダー]

液晶パネル	1.1cm（0.44型）TFT駆動
総ドット数	235 200（980×240）ドット

[電源・その他]

使用バッテリー	リチャージャブルバッテリーパックNP-FM50
電源電圧 バッテリー 端子入力	7.2V
消費電力（撮影時、液晶画面使用時）	1.7W
動作温度	0℃～ +40℃（マイクロドライブ使用時：+5℃～ +40℃）
保存温度	－20℃～ +60℃
外形寸法 （W端時）	139.4×97.7×156.0 mm （幅×高さ×奥行き、突起部を除く）
本体質量	約1047 g（バッテリーNP-FM50、“メモリースティック”、ショルダーストラップ、レンズフードなど含む）
スピーカー	ダイナミックスピーカー
Exif Print	対応
PRINT Image Matching III	対応
PictBridge	対応

ACアダプター AC-L15A

定格入力	AC 100 ～ 240 V、50/60 Hz、18W
定格出力	DC 8.4 V* * その他の仕様については ACアダプターのラベルをご覧ください。
動作温度	0℃～＋40℃
保存温度	－20℃～＋60℃
外形寸法（最大突起部をのぞく）	約56×31×100 mm（幅×高さ×奥行き）
質量	約190 g（本体のみ）

リチャージャブルバッテリーパック NP-FM50

使用電池	リチウムイオン蓄電池
最大電圧	DC 8.4 V
公称電圧	DC 7.2V
容量	8.5 Wh（1 180mAh）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、デジタルスチルカメラや記録メディアなどの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このデジタルスチルカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

■調子が悪いときはまずチェックを

“故障かな？と思ったら”の項を参考にして故障かどうかお調べください。それでも具合の悪いときはテクニカルインフォメーションセンターにご相談ください（裏表紙）。

■保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

■部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

■部品の保有期間について

当社はデジタルスチルカメラの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過したあとも、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください（裏表紙）。

撮影時機能早見表

モードダイヤルの位置によって使用できる項目が異なります。各機能は以下の通り制限されます。

モードダイヤル / 機能	[カメラアイコン]	P/S/A/M	[月アイコン]	[人物・月アイコン]	[風景アイコン]	[人物アイコン]
フォーカスモード						
マニュアルフォーカス	–	○	○	○	○	○
マニュアルフォーカス（PUSH AUTO）	–	○	○	○	○	○
マクロ	○	○	–	○	–	○
AF	○	○	○	○	○	○
モニターモード						
PREVIEW	○	○	○	○	○	○
FRAMING	○	○（マニュアルフォーカス時は無効です）				
AF枠選択 *1	–	○*2				
フラッシュ *3	○		[発光禁止]	[フラッシュSL]/[赤目SL]	[フラッシュ]/[赤目]/[フラッシュ]	○
ホワイトバランス	–	○*4	○	AWB/[フラッシュWB]/[ワンプッシュ]	○*4	○*4
測光モード	–	○	○	○	○	○
連写/ブラケット	○*5	○	–	–	○	○
ISO感度	–	○	–	–	–	–
AE LOCKボタン	–	○（Mモード時は無効です）	○	○	○	○
[セルフタイマーアイコン]セルフタイマー	○	○	○	○	○	○
[ズームアイコン]（デジタルズーム）ボタン	○	○	○	○	○	○
[画面表示アイコン]（画面表示切り換え）ボタン	○	○	○	○	○	○

*1 AF補助光発光時は中央の被写体を優先したAF動作になります。

*2
- デジタルズーム時は選択できません。
- コンティニュアスAF時は [中央重点アイコン]（中央重点）固定になります。
- マニュアルフォーカス時は無効です。

*3 連写/ブラケット時は[発光禁止]（発光禁止）になります。

*4 [フラッシュWB]（フラッシュ）、[ワンプッシュ]（ワンプッシュ）以外のときは、フラッシュを発光するとAWB（オート）になります。

*5 ブラケット撮影はできません。

メニュー

モードダイヤル 機能		P/S/A/M				
画像サイズ	○	○	○	○	○	○
画質	－	○	○	○	○	○
撮影モード*[1]	○	○	○	○	○	○
BRK設定*[2]	－	○	－	－	○	○
フラッシュレベル*[3]	－	○	－	○	○	○
P.エフェクト	－	○	○	○	○	○
色再現	－	○	－	－	－	－
彩度	－	○	－	－	－	－
コントラスト	－	○	－	－	－	－
シャープネス	－	○	－	－	－	－
セットアップ	○	○	○	○	○	○

*[1] 連写設定時はRAWは選べません。

*[2] BRK（ブラケット）撮影時のみ。

*[3] （発光禁止）のときには選べません。

その他

安全のために

→ 2ページもあわせてお読みください。

警告 火災 感電

下記の注意事項を守らないと、**火災**、**大けが**や**死亡**にいたる危害が発生することがあります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。内部点検や修理はテクニカルインフォメーションセンターにご依頼ください。

分解禁止

内部に水や異物（金属類や燃えやすい物など）を入れない

火災、感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を取り出してください。ACアダプターやバッテリーチャージャーなどもコンセントから抜いて、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

禁止

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら、撮影、再生をしたり、液晶画面を見ることは絶対おやめください。交通事故の原因となります。

禁止

撮影時は周囲の状況に注意をはらう

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。

禁止

指定以外の電池、ACアダプター、バッテリーチャージャーを使わない

火災やけがの原因となることがあります。

禁止

機器本体や付属品、記録メディアは、乳幼児の手の届く場所に置かない

電池などの付属品や、"メモリースティック"などを飲み込む恐れがあります。乳幼児の手の届かない場所に置き、お子様がさわらぬようご注意ください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

禁止

電池やショルダーベルト、ストラップを正しく取り付ける

正しく取り付けないと、落下によりけがの原因となることがあります。
また、ベルトやストラップに傷がないか使用前に確認してください。

指示

電源コードを傷つけない

熱器具に近づけたり、加熱したり、加工したりすると火災や感電の原因となります。また、電源コードを抜くときは、コードに損傷を与えないように必ずプラグを持って抜いてください。

禁止

可燃性/爆発性ガスのある場所でフラッシュを使用しない

禁止

フラッシュ、AFイルミネーターなどの撮影補助光を至近距離で人に向けない

- 至近距離で使用すると視力障害を起こす可能性があります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上はなれてください。
- 運転者に向かって使用すると、目がくらみ、事故を起こす原因となります。

禁止

⚠注意　火災　感電

下記の注意事項を守らないと、**けがや財産に損害**を与えることがあります。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない

火災や感電の原因になることがあります。

禁止

ぬれた手で使用しない

感電の原因になることがあります。

ぬれ手禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所に置いたり、不安定な状態で三脚を設置すると、製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

コード類は正しく配置する

電源コードやパソコン接続ケーブル、A/V接続ケーブルなどは、足に引っ掛けると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあるため、充分注意して接続・配置してください。

指示

通電中のACアダプター、バッテリーチャージャー、充電中の電池や製品に長時間ふれない

長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

禁止

使用中は機器を布で覆ったりしない

熱がこもってケースが変形したり、火災、感電の原因となることがあります。

禁止

長期間使用しないときは、電源をはずす

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントからはずしたり、電池を本体からはずして保管してください。火災の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

フラッシュの発光部を手でさわらない

フラッシュ発光部を手で覆ったまま発光しないでください。発光後も発光部に手を触れないでください。やけどの原因となります。

禁止

レンズや液晶画面に衝撃を与えない

レンズや液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。

禁止

電池や付属品、記録メディア、アクセサリーなどを取りはずすときは、手をそえる

電池や"メモリースティック"などが飛び出すことがあり、けがの原因となることがあります。

指示

⚠危険 電池についての安全上のご注意とお願い

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大けがややけど、火災などを避けるため、下記の注意事項をよくお読みください。

⚠危険

- 乾電池型充電式電池・バッテリーパックは指定されたバッテリーチャージャー以外で充電しない。
- 電池を分解しない、火の中へ入れない、電子レンジやオーブンで加熱しない。
- 電池を火のそばや炎天下、高温になった車の中などに放置しない。このような場所で充電しない。
- 電池をコインやヘアーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 電池を水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体で濡らさない。濡れた電池を充電したり、使用したりしない。

禁止

⚠警告

- 電池をハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり、落下させたりするなどの衝撃や力を与えない。
- アルカリ電池/ニッケルマンガン電池は充電しない。
- 外装シールをはがしたり、傷つけたりしない。外装シールの一部または、すべてをはがしてある電池や破れのある電池は絶対に使用しない。

禁止

⚠注意

- 電池は、+、−を確かめ、正しく入れる。
- 電池を使い切ったときや、長時間使用しない場合は機器から取り出しておく。

指示

- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池は混ぜて使わない。

禁止

お願い

リチウムイオン電池とニッケル水素電池はリサイクルできます。不要になったこれらの電池は、金属部分にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

Li-ion	Ni-MH
リチウムイオン電池	ニッケル水素電池

充電式電池の収集・リサイクルおよびリサイクル協力店については

有限責任中間法人JBRC ホームページ
http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

用語の解説

色温度(55、56ページ)

光の色を数値で表したもので、光源自体の温度ではなく、光の色を人間の目に見える感覚に置き換えて表した数値のこと。単位はK(ケルビン)。色温度が低くなるほど赤みを、色温度が高くなるほど青みを帯びた光に感じる。

インストール(87、95、97、99、100ページ)

ソフトウェアなどをコンピューターにコピーして組み込み、使用できる状態にすること。

"インフォリチウム"バッテリー(128ページ)

"インフォリチウム"対応機器とバッテリーの使用状況に関し、データ通信できるバッテリー。

拡張子(93、94ページ)

ファイルの種類を表す3～4文字の英数字のこと。ファイル名の末尾にピリオドで区切られた一番右側の部分。

画素(12ページ)

画像を構成する最小単位。画素数が多いほど画像サイズが大きくなり、画像の解像度が高くなる。

画像サイズ(12ページ)

画素数を縦×横で表示したサイズ。画像サイズが大きいと、画素数が多くなり画像の解像度が高くなる。

光学ズーム(*→別冊「はじめに」手順5*)

カメラのレンズ機能として拡大ズームを行うこと。CMOSセンサーとレンズの間の焦点距離を変化させることにより広角・望遠を切り換える方式。画像の劣化はない。

シャッタースピード(11ページ)

撮影時にCMOSセンサーに光を当てる時間のこと。シャッタースピードを速くすると動きのある被写体も止まって写り、遅くすると流れて写る。

スマートズーム(71ページ)

極めて画質劣化の少ない、画質を優先したデジタルズーム。光学ズームと同じような感覚で使える。ただし、最大ズーム倍率は設定している画像サイズによって異なる。

ドライバ(87ページ)

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピューター側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアのこと。

ノイズ(11ページ)

CMOSセンサーが光を受け取り信号として出力するまでの過程で発生する画像のざらつきのこと。

パワーセーブ機能(72ページ)

電源を入れたまま一定時間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、本機が節電モードに入る機能。

半押し（→*別冊「はじめに」手順5*）
シャッターボタンを押し込まず、半分押した状態にしておくこと。シャッターボタンを半押しすると、撮影状況に合わせてピントと露出を自動で調整する。

ピント（45ページ）
被写体に対する焦点のこと。本機はピントを自動調整する。撮影距離を手動でも設定できる。

フォーマット（77、79ページ）
「初期化」とも言い、記録メディアにデータを書き込めるようにすること。フォーマットすると、記録メディアに保存されているデータはすべて消える。

フォルダ（66ページ）
本機で撮影した画像をまとめて格納する場所。目的別（イベント別）・日付別に画像を分類するときに便利。

プレシジョンデジタルズーム（71ページ）
ズーム倍率を優先したデジタルズーム。画像をデジタル処理することにより、画像サイズの設定に関係なく常に最大で光学ズーム倍率の2倍のズームが可能。画像サイズ、ズームポジションによっては、スマートズームより画質が劣化することがあるが、一般的なデジタルズームに比べて劣化の少ない画質が得られる。

ホワイトバランス（55ページ）
光源に合わせて色を調整する機能。被写体の見た目の色は光の状況に影響される。例えば、電球の下で撮影すると白い被写体が赤っぽく写る。ホワイトバランスを設定すると、自然な色合いで撮影できる。

"メモリースティック"（125ページ）
"メモリースティック"は小さくて軽いIC記録メディア。

有効画素数（131ページ）
CMOSセンサーが光から電気信号に変換できる画素数。有効画素数から画像処理をしたものが記録画素数になる。

露出（11ページ）
絞りとシャッタースピードの値により決まる光量。

Adobe RGB（57ページ）
「アドビ・アール・ジー・ビー」と読み、米Adobe Systems社が提唱した色空間（色を数値の組み合わせによって表現するための方法、カラースペース）。
Windowsなどで使われる一般的なモニターなどで採用されている色空間sRGBと比べると、シアンからグリーンにかけて広い色空間を持ち、色が鮮やかになるため、主に印刷物などに用いられる。

AE（→*別冊「はじめに」手順5*）
「Auto Exposure」の略で、被写体の明るさをカメラが判断して、自動で露出を決める機能。

AF（46ページ）

「Auto Focus」の略で、カメラが自動でピントを合わせる機能。

CMOSセンサー（131ページ）

「Complementary Metal Oxide Semiconductor」の略で、光を電気信号に変換する半導体の一種。

DCF（9ページ）

「Design rule for Camera File system」の略で、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された統一規格。

DPOF（106ページ）

「Digital Print Order Format」の略。「ディーポフ」と読み、プリント予約したい写真を“メモリースティック デュオ”上に指定できる。

EV（40ページ）

「Exposure Value」の略で、露光量を表す単位。

Exif（131ページ）

（社）電子情報技術産業協会（JEITA）が制定した撮影情報などの付帯情報を追加できる静止画像用のファイルフォーマット。

ISO（44ページ）

「イソ」と読み、カメラフィルムの光に対する感応度で、ISO単位で表す。数値が大きいほど高感度に撮影できる。

JPEG（93ページ）

「ジェイペグ」と読み、インターネットで扱う代表的なカラーの静止画を圧縮する形式。本機では、通常の静止画撮影時、JPEG形式で画像を保存する。

Mass Storage（82ページ）

“メモリースティック”が入ったデジタルカメラ自体を、外付けの記憶装置として認識し、USB接続したパソコンから操作可能なモード。

MF（47ページ）

「Manual Focus」の略で、手動でピントを合わせる機能。

OS（85、98ページ）

「Operating System」の略。コンピューター全体を管理し、コンピューターを操作するのに必要な基本ソフトウェアのこと。

PictBridge（102ページ）

「ピクトブリッジ」と読み、カメラ映像機器工業会（CIPA）で制定された統一規格。PictBridge対応のプリンターと本機を接続して、画像ファイルをプリントできる。

PTP（82ページ）

「Picture Transfer Protocol」の略。パソコンに画像データを簡単にコピーできる接続方法。

RAWデータ（60ページ）
「ロー」と読み、CMOSセンサーの生データをそのまま保存するため、圧縮、保存、解凍による画像劣化がないファイル形式のこと。専用ソフトウェアで画像処理を行い、「現像」する。画像補正機能を使用することによって、最適な画像を創ることができる。

USB（87、98ページ）
「Universal Serial Bus」の略。キーボードやマウスなどのパソコンの周辺機器を接続するための規格。

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

ワ行

アルファベット順

商標について

- Cyber-shotはソニー株式会社の商標です。
- “Memory Stick”、“メモリースティック”、MEMORY STICK ™、“Memory Stick PRO”、“メモリースティック PRO”、MEMORY STICK PRO、“Memory Stick Duo”、“メモリースティック デュオ”、MEMORY STICK DUO、“Memory Stick PRO Duo”、“メモリースティックPRO デュオ”、MEMORY STICK PRO DUO、“MagicGate”、“マジックゲート”およびMAGICGATEはソニー株式会社の商標です。
- “InfoLITHIUM（インフォリチウム）”はソニー株式会社の商標です。
- PicturePackageはソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Media、DirectXは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTime、iMac、iBook、PowerBook、Power Mac、eMacはApple Computer, Inc.の登録商標または商標です。
- MacromediaおよびFlashはMacromedia Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Intel、MMX、PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。
- コンパクトフラッシュ（CompactFlash）は、米国サンディスク社の商標です。
- Microdriveは、Hitachi Global Storage Technologiesの登録商標です。
- Adobe は Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。